

MESA/BOOGIE[®]



取扱説明書

ROADSTER

目次

使用上のご注意	0
概要	1-2
はじめに	3
役立つヒント	3-4

フロントパネル

モード: CH1 & 2 Clean	5
CH1 & 2 Fat	5
CH1 Tweed	5
CH2 Brit	6
CH3 & 4 Raw	6
CH3 & 4 Vintage	6
CH3 & 4 Modern	7
コントロール:	
GAIN (ゲイン)	7
TREBLE (トレブル)	8
MID (中域)	8-9
BASS (バス)	9
PRESENCE (プレゼンス)	9
MASTER (マスター)	10
OUTPUT CONTROL (アウトプット・コントロール)	10
SOLO CONTROL (ソロ・コントロール)	11
STANDBY SWITCH (スタンバイスイッチ)	11
POWER BOLD/OFF/SPONGY (電源スイッチ)	11

バックパネル

SLAVE (スレーブ)	12
SPEAKERS (スピーカー出力端子)	12
REVERB (リバーブ)	12
CHANNEL STRIPS (チャンネル・ストリップ)	13
DIODE/TUBE TRACKING (ダイオード整流/レクト真空管トラッキング)	13
FX ON/OFFスイッチ	14
FX LOOP PATCHING (エフェクトのパッチ)	14-15
FX RETURNをパワーアンプ入力としての使用	15-16
EXTERNAL SWITCHING (外部スイッチ)	16
TUNER OUT (チューナー出力)	16
電源ソケット	16
FUSE (フューズ)	17
サンプル・セッティング	18-21
スピーカー: インピーダンスと接続ガイド	22-27
パーツ・シート	28

使用上のご注意

この説明書を読んで下さい。

この説明書をなくさない様に保管して下さい。

注意事項を必ず読んでからお使い下さい。

安全事項にも従って下さい。

水の近くで当製品を使用しないで下さい。

汚れた時は乾いた布で拭いて下さい。

換気口を塞がないで下さい。説明書に従ってインストールして下さい。

暖房機器や、他のアンプなど、熱を発生する機器の近くに置かないで下さい。無理やり、形の違うコンセントに挿さないで下さい。有極プラグは片方のブレードが幅広くなっています。アース付プラグは2つのブレードの他にアース端子も付いています。アースは安全の為のもので、自宅のコンセントに差し込めなかった場合、電力会社に相談して下さい。

電源ケーブルを踏んだり、曲げたりしないで下さい。

落雷の恐れがある時や、長時間使用しない時は電源ケーブルを外して下さい。

修理が必要な時は専門家に依頼して下さい。ケーブルがダメージを受けたり、本体が傷ついたり、濡れたり、落として壊れたりした場合、修理に出して下さい。

換気の為に本体の後ろに必ず10センチ程度のスペースを空けて下さい。換気口の上に新聞、テーブルクロスやカーテン、といった物を置かないで下さい。

ロウソクや火が付くような物を本体の近くに置かないで下さい。

濡れている物も本体の近くに置かないようにして下さい。

注意:安全のため、本体を雨や湿気に晒さないで下さい。

なるべくコンセントの近くに設置して下さい。

注意:必ず適切な接続をしてからアンプを操作して下さい。そうしないとアンプが故障する可能性があります。

直射日光や高い湿度は避けるようにして下さい。

必ずアースを接続して下さい。

解体したり、ヒューズやチューブを交換したりする前に必ず電源ケーブルをコンセントから外して下さい。ヒューズを入れ替える時は、必ず同じタイプのヒューズを使って下さい

。動作中にチューブに直接触れないで下さい。

子供に触らせないで下さい。

故障を避けるため、ケーブルなどを接続する前に電源を切って下さい。

汚れを取るのに溶剤を使用しないで下さい。

必ず本体の裏に表示されている条件を満たすAC電源を使用して下さい。輸出モデルは各国の電圧に合わせてあります。お住まいの規定に従って電源に接続して下さい。

大きな音が出ますので、スピーカーに耳を近づけないで下さい。

Mesa/Boogie(メサ/ブギー)アンプはプロ用の機材なので、規定に従って扱って下さい。

上記の取り扱い注意事項と安全管理事項を必ず読んで下さい!



取扱説明書

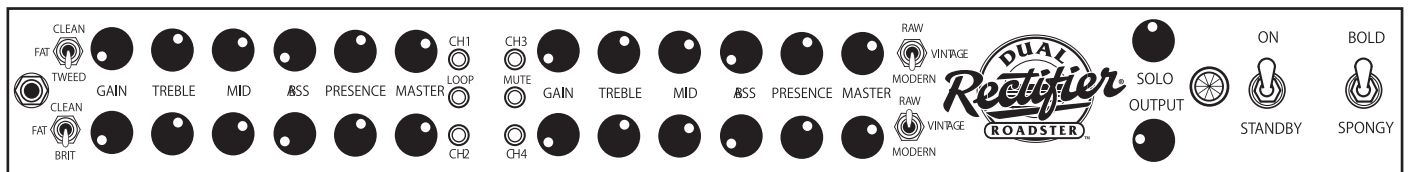
概要:

Mesa Dual Rectifier Roadster (ロードスタ)をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。そしてメサ・ファミリーへようこそ!このハンド・メイドの全真空管アンプを選んだ事で、あなたはギター・アンプの未来へと、一步踏み出したのです。Roadsterは、一目で、ただのアンプではない事が解ります。それは、多くのアンプが1つのシャーシに詰まりました。このサウンドの宝庫は強力で、あなたの思い通りに操る事が出来、ひとたび演奏を始めると、あなたのイメージーションを駆り立ててくれます。さあ、それでは早速機能を理解して、あなただけのサウンドをクリエイティブにいきましょう。

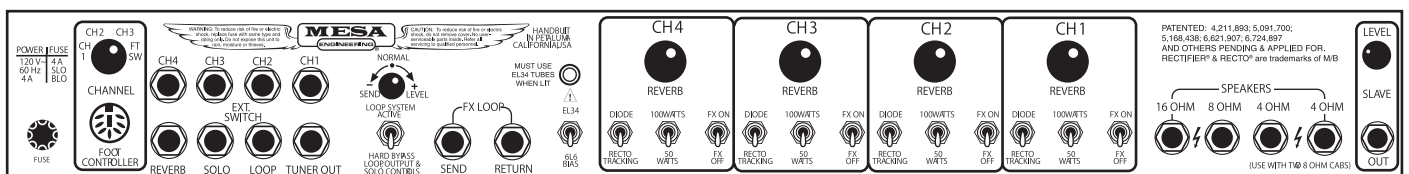
まず始めに、このギター・サウンドの宝庫を理解する上で最も重要な事は、一見してすぐ解る様に、このアンプは4つのセクションに分かれているという事です。各セクションを個別に理解して、それから、それらを統合すると、このアンプを簡単により良く理解出来るはずです。フロント・パネルの各プリ・アンプ・チャンネルは、リア・パネル(我々はチャンネル・ストリップと呼んでいます)の、パワー・アンプ/エフェクト・ループ・コントロール・パネルに対応しています。チャンネル/モードを選択したら、単純にリア・パネルで、そのチャンネルのパワー・アンプ(50W/100W)を選ぶだけです。これで、あなたのレクティブ・スタイルは決まりますので、あとはエフェクト・ループを選択してプログラムすれば、準備完了です。他のチャンネルに関しても、同様の手順を踏めば、すぐに音を出す事が出来ます。Roadsterで、あなたのサウンドを求める旅に出発しましょう。Roadsterの奥深さ、そして潜在能力については年を追う毎に、追々解ってくるはずです。まずは、**Roadster**で、シンプルに音を出す事が先決です。

4つの独立したプリ・アンプ・チャンネルは、**Roadster**の前半を司る、音作りには欠かせないパートです。そして、そのプリ・アンプは、低ゲインのリズム・チャンネル(1 & 2)と高ゲインのリード・チャンネル(3 & 4)の2つのグループに分ける事が出来ます。インプット・ジャックの隣には、2組の低ゲインのリズム・チャンネルが上下に配置されています。各チャンネルには3種類の異なるモードがあり、各モードは、それぞれ異なるボイスング、そして場合によっては異なるゲイン構造で構成されています。モードの名称は、グループ毎に共通(リズム・チャンネルの1つを除いて)である事がお分かりいただける事でしょう。これにより、同じサウンドから、セッティングを変えてバリエーションを増やす事が出来ます。

フロントパネル: Roadsterコンボ



バックパネル: Roadsterコンボ



概要(続き):

Roadsterは、変幻自在であり、ジャンルを問わず様々なミュージシャンに使って頂けます。幅広い音楽ジャンルにも対応出来ますし、ある特定のジャンルのサウンドを突き詰めていく事も可能です。例えば、ブルース・プレーヤーなら、チャンネル1 & 2を、同じモードで異なるクリーン・サウンドの設定にして、コード・サウンドやソロ・サウンドにする一方で、チャンネル3 & 4を、同じ低ゲインのソロ・サウンドにして、レベルを変えるとといった事が出来るでしょうし、反対に、ロック・プレーヤーなら、チャンネル1 & 2を、クリーンなプッシュ・リズム・サウンドにして、チャンネル3 & 4を、同じモードで異なる、高ゲインのクランチ・リズム・サウンドや、リード・サウンドにするといった事が出来ます。

このようなプリ・アンプの汎用性は、あなたの所属するバンドが変わったり、新たなジャンルに挑戦するときでも、一切妥協する必要がない事を意味します。このアンプは、あなたと一緒に成長していくのです。

この驚くべきプリ・アンプで作られされたサウンドは、**Roadster**のエフェクト・ループ・セクションに送られます。エフェクト・ループは、直列ループであり、ほとんどのエフェクト・プロセッサーを接続する事が出来ます。エフェクト・ループはチャンネル毎にプログラムしたり、フットスイッチでオン/オフする事も出来ます。

Roadsterには、レクティブファイア・トラッキング機能があります。これは、選択されたプリ・アンプとパワー・セクションの整流タイプを、自動的に合わせる機能です。これは、あなたの作っているサウンドに、パワー感を加える事を意味します。例えば、低いワットテージのクリーン・サウンドに、ルーズなフィーリングや、真空管整流の空気感を加えたり、高ゲインのリード・サウンドに、大きなパワーや、半導体整流器のタイトなトラッキングや、低音域のレスポンスの良さを加えたりします。レクティブファイア・トラッキングは、パワー・セクションにおいて、あなたの選択した様々な組み合わせのパワー管の整流を適正に行います。例えば、2x 6L6を使用して、真空管整流を選択すると、1x 5U4Gが適応します。また、4x 6L6を使用すると、2x 5U4Gが適応します。このレクティブファイア・トラッキング機能は、**Roadster**のサウンドのバリエーションをさらに広げ、表現力を比類無きものにしてくれます。

Roadsterは、リッチで、全真空管のアナログ・リバーブを内蔵しています。チャンネル毎にリア・パネルのリバーブ・コントロールで調整する事が可能で、オン/オフは、フットコントローラーで行う事も出来ます。

ソロ機能は、パラレル接続された出力レベル・コントローラーであり、事前にレベルを設定しておく、フットスイッチを押す事で、そのレベルに切り替える事が出来ます。この機能は、曲の途中で、ギター・ソロになる時に、レベルを大きくする場合等に使用します。

内蔵のVariac(可変電圧) SPONGY(スポンジー)/BOLD(ボールド)スイッチは、弊社の特許技術であり、入力された電源電圧を内部で下げる機能です。これによりサウンドはルーズになり、高次倍音が増えて広がりのある音になります。

最後に、**Roadster**の表現力を増す、便利なフットスイッチ・コントローラーをご紹介します。このコントローラーを使うと、チャンネルや機能を素早く切り替える事が出来、LEDが光るので、アンプの状態を把握する事が出来ます。

これで、**Roadster**の概略はご理解いただけたと思いますので、早速演奏に入っていきます。

はじめに:

- 1.) アンプを箱から取り出したら、真空管(プリ・アンプ管、パワー管、整流管全て)についているプラスチックを、全て取り外して、全ての真空管がソケットにしっかり装着されている事を確認します。
- 2.) スプリングの真空管クランプを広げて、5U4整流管(装着されていない場合は)を装着します。クランプをきちんと広げれば、真空管を軽く押し込むだけで、装着する事が出来ます。装着する際は、ソケットのスロットに沿って、真空管のベースを差し込みます。無理矢理押し込まない様に注意して下さい。ソケットに沿っていれば、そんなに力は必要ないはずです。
- 3.) フット・コントローラーの8ピンDINケーブルを、リア・パネルのロータリー・モード選択スイッチの下にあるDINコネクタに接続します。
- 4.) 電源ケーブルをコンセントに接続して下さい。
- 5.) 電源スイッチをBOLDにして、最低30秒経って、パワー管のフィラメントが暖まってから、STANDBY(スタンバイ)スイッチを上倒して下さい。このコールド・スタートの手順を踏む事で、真空管の寿命を延ばす事が出来ますので、アンプの電源を入れる際は必ず行って下さい。
- 6.) STANDBYスイッチを上倒すまでは、フロント・パネルの出力ボリュームを絞りに絞っておいて下さい。これにより、いきなり大きな音が出て耳を痛めるトラブルを避ける事が出来ます。このアンプは、相当大きな音を出す能力を持っていますので、注意が必要です。この手順は必ず守って下さい。
- 7.) STANDBYスイッチを上倒して、演奏を始めて下さい。

役立つヒント:

- 1.) チャンネルや機能の切り替えを、フットスイッチで行う場合は、リア・パネルのチャンネル・セレクト・ロータリー・スイッチをFOOTSWITCHに設定して下さい。
- 2.) **OUTPUTとSOLOコントロールは、エフェクト・ループが有効になっている時のみ動作します。**リア・パネルのEFFECTS LOOPがLOOP BYPASSになっていると、コントロールは効きません。
- 3.) SOLOコントロールは、リア・パネルのFOOTSWITCHジャックにフット・コントローラーが接続されていて、エフェクト・ループがLOOP ACTIVEに設定されている時に有効になります。フット・コントローラーが接続されていないと、SOLOコントロールは効きません。
- 4.) SOLO機能は、OUTPUTコントロールのレベルよりも高く設定する事は出来ませんが、低い設定にする事は出来ません。
- 5.) GAIN(ゲイン)とTREBLE(トレブル)コントロールは、4つのチャンネル全てで、最も強力なコントローラーです。このコントローラーは、サウンドのテイストを決定する重要なものであり、良いサウンドは、このコントローラーを中位の領域にした時に生まれています。GAIN(ゲイン)を最大値にした場合は、TREBLE(トレブル)を2時よりも高い設定にしないで下さい。これをやってしまうと、必要ないノイズや、ハウリングが起こってしまいます。
- 6.) チャンネル3 & 4で、RAW(ロウ)あるいはVINTAGE(ビンテージ)モードから、MODERN(モダン)モードに切り替えると、音量が相当大きくなります。モードを切り替えるときは、いきなり音が大きくなる様に、必ずMASTER(マスター)コントロールをチェックして下さい。モードを切り替えるたびに、チャンネルのMASTER(マスター)コントロールを0から上げていく事を癖にすると良いでしょう。

役立つヒント (続き)

7.) PRESENCE (プレゼンス) コントロールは、ゲイン・サウンドのボイスングを決定づける、大きな要素です。これを低めの値に設定すると、チャンネル 3 & 4 の 3 つのモードでは、太くて、圧縮の効いたサウンドになり、弦の振動に、瑞々しさが加わります。高めの設定にすると、サウンドに切れと明るさが加わります。クランチ・リズム・サウンドを求めているなら、GAIN (ゲイン) の設定も高めにする事で、低音域のタイトさもキープする事が出来ます。

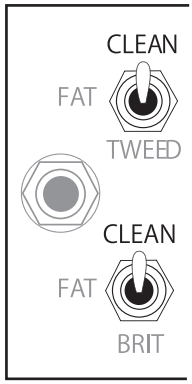
8.) チャンネル 3 & 4 は、モードの構成が同じですが、PRESENCE (プレゼンス) コントロールの特性が異なりますので、つまみを同じ位置にしても同じサウンドにはなりません。チャンネル 3 の PRESENCE (プレゼンス) コントロールは、RAW (ロウ) あるいは VINTAGE (ビンテージ) モードに最適化されていますので、高めの設定にすると“とても明るく”なりますが、一番低い設定にすると、丸いサウンドになります。この特性は、この 2 つのモードで、暖かみのあるサウンドを求めている時に最適です。一方、チャンネル 4 の PRESENCE (プレゼンス) コントロールはとても強力で、MODERN (モダン) モードに最適化されていますので、高めの設定にすると、途方も無いサウンドになります。MODERN (モダン) モードにする時は、2 時位までにしておいた方が良いでしょう。チャンネル 3 & 4 の PRESENCE (プレゼンス) コントロールの違いは、**チャンネル 3 の PRESENCE (プレゼンス) コントロールの全領域が、チャンネル 4 の 10 時位までの領域と考えれば良いでしょう。**プレーする時には、チャンネル 3 の MODERN (モダン) モードの時は、PRESENCE (プレゼンス) コントロールを高い設定にして、反対に、チャンネル 4 の RAW (ロウ) あるいは VINTAGE (ビンテージ) モードの時は、PRESENCE (プレゼンス) コントロールをととても低く設定しなければならぬという事です。

9.) リバースをかけているチャンネルの切り替えや、リバースのオン/オフをフット・コントローラーで行うと、ドライ・シグナルにリバースが掛かるのに、1 - 2 秒の間があいてしまいます。この事に関する詳細は、リア・パネル・セクションのリバースの下ノートをご覧ください。

いくつかのヒントを手に入れた所で、コントローラーやモードに関して詳しく見ていきましょう。

チャンネル・モード:

チャンネル1 & 2: CLEAN (クリーン)



これは、Roadsterの12種類のモードの中で、1番ゲインが低い回路を使用しており、バランスのとれた、ピュアでクリーンなサウンドに適しています。このモードは、チャンネル2でも同じですので、クリーン・サウンドのバリエーションを広げることが出来ます。このモードで素晴らしいサウンドを生み出す為に理解しておかなければならない事は、このマニュアルのゲイン・チャンネル・セクションを参照して下さい。まずは、コントローラーを12時半にしてみます。これより低いときらびやかなサウンドになり、これより高いと暖かみのあるサウンドになります。あとは、ギター独自のレスポンスやサウンド・キャラクターによります。

伝統的な回路で構成されるこのモードは、ビンテージ・スタイルのドライブ・サウンドにも向いています。GAIN (ゲイン) を右に回しきると、懐かしの美しいソロ・サウンドを生み出します。特にシングル・コイル・ピックアップとの相性は抜群です。TREBLE (トレブル) と MID (ミドル) コントロールを追加すると、ゲインが増して音のサスティーンを伸ばす事が出来ます。この場合、プレゼンスは少し抑えめにすると良いでしょう、そして、BASS (バス) コントロールは10時半よりも低い設定にして下さい。それよりも高くすると、低音域の締まりがなくなり、アタックがぼやけたサウンドになってしまいます。

チャンネル1 & 2: FAT (ファット)



このモードは、弊社のオリジナルMark I ブギーを継承しており、ロー・ミッドとボトム・エンドをより強調しています。その結果、ギターの6弦のサウンドが、太く、荒々しくなっています。このモードは、チャンネル2でも同じですので、サウンドのバリエーションを広げることが出来ます。CLEAN (クリーン) モードとの違いは、単音のソロ・サウンドに於ける、音の厚みと暖かさに出ます。FAT (ファット) モードの方が音の厚みと暖かみが増します。この2つのモードは大きく異なりますので、コントローラーは全く別と思った方が良いでしょう。コード・サウンドにおいては、BASS (バス) コントロールがキーになります。

このモードで良いサウンドを得るには、GAIN (このマニュアルのゲインコントロール・セクションを参照して下さい) も大きな役割を果たします。このモードで広がりがあるヘッドルームの大きなコード・サウンドを得る為には、GAIN (ゲイン) を10時半から12時位に設定すると良いでしょう。

単音のクリーンなソロ・サウンドが欲しい時は、1時から2時くらいが最適です。押しの強いリズム・サウンドの場合は、GAIN (ゲイン) を右に回しきって、BASS (バス) を9時半より低い設定にすると、低音のだぶつきが無い良いサウンドになります。

チャンネル1: TWEED (ツイード)



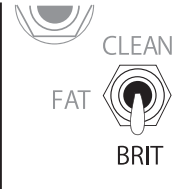
TWEED (ツイード) は、チャンネル1にしかないモードであり、両方のチャンネルにあるCLEAN (クリーン) モードのバリエーションです。低ゲインのクリーンな回路から生み出される、しなやかで躍動感のあるサウンドは、ビンテージな雰囲気も持っています。このモードは演奏し易く、弦の振動がそのまま音に現れます。それは、あたたかも実際の弦の太さより細い弦を弾いているかのような感覚です。その感覚は、このアンプのサウンドがもたらしているのです。

このクリーン・サウンドに対するアプローチがお好みでしたら、この手順をさらに発展させて、A.C. POWER SELECT (パワー・セレクト) スイッチをSPONGY (スポンジー) にして、電源電圧を少し落とした時の、サウンドの変化を試してみたいでしょうか。ヘッドルームの小さなサウンドもヘッドルームの大きなサウンドも、このTWEED (ツイード) モードは、クリーン・パフォーマンスのあらゆるスタイルに対応出来る、素晴らしいボーイングを提供します。

チャンネル・モード:

チャンネル 2: BRIT (イギリス風)

チャンネル 2 だけにあるモードで、名前が示している様に、50年代、60年代のイギリスのサウンドを彷彿させます。これらのクラシック・アンプは、基本的に“上下逆さまのレオ回路”を採用しています。しかし、このアンプでは5極管にヨーロッパ・スタイルのEL 34を搭載しているおかげで、ただのクラシック・アンプにとどまる事はありません。回路内での違いはわずかですが、サウンドの違いは、アメリカで生まれた、ツイードや、ブラック・フェース・アンプを凌ぐほどです。

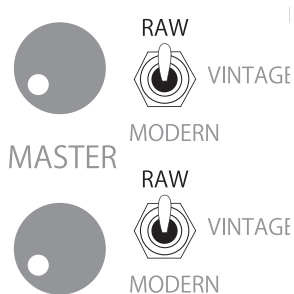


我々は、いくつものクラシック・アンプの回路を、素晴らしい品質にまとめあげました。このモードは、チャンネル 1 & 2 の他のモードと異なり、トレブルを低い領域に設定しても、ロー・ミッドにパンチがあるサウンドに仕上がっています。このモードは、コード・サウンドにも、単音の太いソロ・サウンドにも最適です。また、ハイ・エンドが少し減衰して、中音域が幅広いクリップ・サウンドは、クールなクランチ・リズムを刻みます。

言うまでもありませんが、2x EL34/パワー・セクションは、このモードの為に生まれたのであり、この2つのパートを組み合わせる事で、真価を発揮します。このキャラクターは、TWEED (ツイード) モードと 2x 6L6/パワー・セクションの組み合わせとは対極を成しています。こういった選択肢の多さは、Roadsterの多様性を表しており、これにより、バラエティーに富んだ、音作りを可能にしているのです。

チャンネル 3 & 4: RAW (ロウ)

この新たなRoadsterモードは、2つの高ゲイン・リード・チャンネルの3つのモードの中では、最もゲインが低くなっています。この2つのリード・チャンネルが生み出す、歪みの少ないサウンドは、汎用性に富んだサウンドの宝庫を、さらに大きなものにしていきます。使用可能なゲインの幅は信じられない程広く、クリーン・モードの2倍に達します。低ゲインのブルース・サウンドからクランチ・リズム・サウンド、そして焼けるようなソロ・サウンドまで、幅広いジャンルを網羅しています。



クランチ・リズム・サウンド向きのRAW (ロウ) モードで、TREBLE (トレブル) を比較的高め (2時) に設定すると、ゲインが少し増えて、音に切れが出てきます。チャンネル 4 では、PRESENCE (プレゼンス) コントロールのカーブ特性によって、ビンテージ・サウンドがより攻撃的になります。チャンネル 3 & 4 のRAW (ロウ) モードでは、中位のゲインの驚くべきソロ・サウンドのポテンシャルも見落とさないで下さい。それは、PRESENCE (プレゼンス) コントロールの緩やかなカーブ特性によるものであり、レンジの広い歌声のような単音ソロ・サウンドを提供します。

チャンネル 3 & 4: VINTAGE (ビンテージ)

この高ゲインのモードは、有名なリキッド・レクト・ボイスと、チャンネル 3 & 4 オリジナルのサウンドを生み出します。その瑞々しい、倍音成分が豊富なサウンドはクリーミーで、多くのレコーディングに使用されており、多くの人の頭に焼き付いているサウンドは、多くのアルバムに記録されています。ジューシーなサウンド、レクト・ブラック・マジックの様に印象的なプリ・アンプ、真空管整流のパワー・セクション、これら全てが一体となって作り出すサウンド・カラーは、多くのプレーヤーを中毒にさせてしまいます。VINTAGE (ビンテージ) モードの音楽的で自然なコンプレッションは、単音のソロ演奏に於いて、弦が変わったと錯覚させる程、うまくプレーさせてくれます。VINTAGE (ビンテージ) モードのコントローラーを低い設定にする事で、RAW (ロウ) モードとオーバーラップする、微妙なニュアンスのサウンドにする事も出来ます。

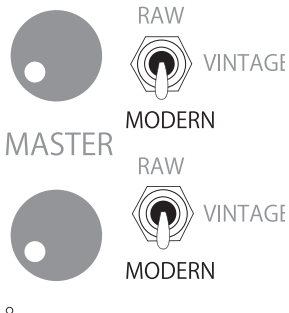


この2つのモードは、VINTAGE (ビンテージ) のコントローラーを、低い領域に設定した状態と、RAW (ロウ) モードのコントローラーを、中位から高い領域に設定した状態が似ています。また、そのキャラクターは、独特で個性的です。さらに、チャンネルを反対にする事で、異なるボイスのビンテージ・サウンドにする事が出来ます。これにより、大きなサウンドの海から、また1つ新たなサウンドを発見する事になるでしょう。

チャンネル・モード(続き):

チャンネル3 & 4: MODERN(モダン)

アグレッシブ。この単語程*Roadster*のこのモードを端的に表現している言葉は無いでしょう。3 & 4が*Roadster*のオリジナル・サウンドになっています。軽快で素早いレスポンスから生み出される、荒々しく、攻撃的なサウンドは、ハード・コア・サウンドの新たなスタンダードになりつつあります。



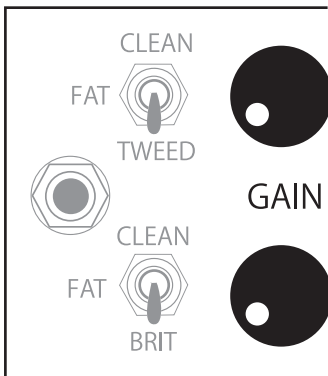
基本的には高域のソリッドさを維持しながら、低域のレスポンスにタイトさが加わった**MODERN**(モダン)モードは、ゲイン設定を極端にしても音がつぶれる事無く、各ノートの粒立ちがはっきりしています。チャンネル3で**MODERN**(モダン)モードを使用する時は、チャンネル4の時よりも**PRESENCE**(プレゼンス)コントロールの効きが弱い事を思い出して下さい。

MODERN(モダン)モードで単音のソロ・サウンドを求めているのなら、チャンネル3にすると、微妙なコントロールが可能になります。

コントロール:

GAIN(ゲイン):

このつまみで、各チャンネル回路へのゲイン・レベルを調整します。*Roadster*には、1つのシャーシの中に、3基のマルチ・モード・アンプが内蔵されており、各チャンネルは独立しています。**GAIN**(ゲイン)コントロールつまみも、それぞれ専用を用意されていて、回路も独立しています。



ほとんどのギター・アンプ、とりわけ全真空管回路においては、プリアンプの**GAIN**(ゲイン)コントロールが最も重要なコントローラーになります。**GAIN**(ゲイン)コントロールは、全体のスタイル、そして、クリーン・サウンド、オーバードライブ・サウンドといった、サウンドのキャラクターを決定づける役割を担っています。*Roadster*において、**GAIN**(ゲイン)コントロールは、さらに強力です。**GAIN**(ゲイン)コントロールは、ドライブの量を決めるだけでなく、トーン・コントロール全体を決定づける役割を担っているのです。

GAIN(ゲイン)コントロールをわかり易くする為に、2通りの説明をします。**1**; **GAIN**(ゲイン)コントロールのみ、**2**; トーン・コントロールとの組み合わせ

1) GAIN(ゲイン)コントロールを3つの領域に分けて、それぞれのトーン・キャラクターをコントロールします。

低(7時から11時) この領域はクリーン・サウンドです。歪みが最も少なく、明るく、高次倍音を豊富に含んだサウンドが特徴です。

中(11時15分から2時) この領域は、歪みが強調され、高次倍音の成分が変化し、豊かで暖かみのあるサウンドになり、それに加えて低域のレスポンスも向上します。まだ飽和しきるところまではいっていませんが、3つのチャンネル全てで、この領域が最も扱い易いといえるでしょう。この領域が*Roadster*のベスト・サウンドの多くを生んでいます。特にソロ・サウンドにおいては、表現力に富んだアタック・レスポンスと、サスティーンが絶妙にブレンドされています。

高(2時15分から5時) この領域は、低域から中低域にかけての信号が歪んでいます。最大限の歪みを得る事によって、サウンドのサスティーンを生み出しています。それと同時にコンプレッションがかかるので、アタックが柔らかくなります。これらの事を総合的に考えると、この領域は、サウンドにサスティーンを必要とする時のみにした方が良いでしょう。

コントロール(続き):

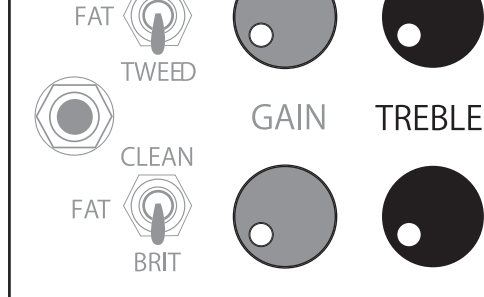
ノート: *Roadster*は、凄まじいばかりのゲイン・ポテンシャルを持っているので、ゲインを高くしすぎると、プリアンプ管でハウリングを起こしてしまう事があります。弊社では、アンプの真空管に対しても厳格なテストを施し、合格したものをアンプに組み入れています。あまりにも高いゲインの入力に曝される事が多いと、真空管の寿命は縮まっています。真空管を末永く使用いただく為にも、高すぎるゲイン設定は出来るだけ避ける事をお勧めします。

ボリュームが小さいと感じたら、TREBLE(トレブル)やPRESENCE(プレゼンス)の設定も確認して下さい。*Roadster*は、極端な設定をしなくても、充分ゲインやトーンのコントロールが出来る様に設計されています。なかなか思うようなサウンドのクオリティーが得られない時は、アンプ以外、例えば、ギター・ピックアップ、スピーカー・キャビネット、エフェクト・プロセッサ等に問題があるかもしれません。

2.) GAIN(ゲイン)-トーン・コントロールとの組み合わせ-まず、基本的に守るべきルールがあります。それは、ゲインを上げ過ぎないこと。ゲインを5時等といった高すぎる設定にしてしまうと、トーン・コントロールをいくら調整しても効果は得られません。以前の項でも述べましたが、ゲインは中位を基本にして微調整をする様にして下さい。そうする事で、トレブル、バス、プレゼンスといったトーン・コントロールが生きてくるのです。

TREBLE(トレブル):

ほとんどの真空管ギター・アンプにおいて、**TREBLE**(トレブル)コントロール(*Roadster*の4つのチャンネル全て)は、GAIN(ゲイン)コントロールの次に強力なコントローラーといえるでしょう。その理由は、トーン・コントロールの信号経路で最初に通るという事です。信号はその後、ミドル、バスと流れていきます。ですから、3バンドの中でも、**TREBLE**(トレブル)コントロールの設定はとても大切です。*Roadster*のトーン・コントロールは、ほとんどが**TREBLE**で行われ、その後、MIDDLE(ミッド)BASS(バス)の順に流れていきます。



トレブルには、明らかにスイート・スポット(効果が高いポイント)があります。それは、中位の領域(11時から1時半)です。そして、**TREBLE**(トレブル)と他の2つのトーン・コントロールのバランスが大切であるという事も覚えておいて下さい。

音作りをしていると、たまに大胆な事をしたくなって、*Roadster*のチャンネル1の**TREBLE**(トレブル)を強めにしてしまう事があるかもしれません。3つのモード(クリーン、ファット、ツイード)全てにおいて、**TREBLE**(トレブル)コントロールは強力です。クランチ・サウンド用のTWEED(ツイード)モードでは特に効果的です。PRESENCE(プレゼンス)コントロールを使用して同様の効果を得ようとする、コンプレッションのかかった、太いサウンドになります。また、このようなコントロールをしすぎると、BASS(バス)コントロールの効果がなくなってしまいます。音作りはバランスを考慮しながら行う様にして下さい。これは結果的に、チャンネル1のTWEED(ツイード)モードでは、**TREBLE**(トレブル)コントロールを、2時半よりも高い設定にしない方が良いという事に繋がるのです。

MID(中域):

MID(中域)コントロールは、サウンドの中域の周波数帯を、どの程度強調するかを調整します。このコントロールは、トレブル程劇的な効果は望めませんが、*Roadster*のサウンドを決める上で重要な役割を果たします。**MID**(中域)コントロールは主に、サウンドが柔らかく感じられるか、固く感じられるかといったニュアンスをコントロールします。

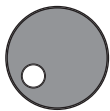
MIDDLE(ミドル)コントロールを低め(7時から11時)に設定すると、中域が少なくむしろ低域が少し強調された感じになり、パンチの無い、コンプレッションの掛かったようなサウンドになります。**MIDDLE**(ミドル)コントロールを少し強め(11時半から1時半)にすると、丸みのあるサウンドになり、中域のアタックが素早くなります。

コントロール (続き):

MID (中域):

MIDDLE(ミドル) コントロールを、これよりも上の領域(2時から5時)にすると、ゲインが大きくなり、明瞭度が増していきます。これにより、サウンドは太くなり、コンプレッションがかかった感じはやや少なくなります。また、このコントローラーは、出力の小さなピックアップの音量を補正したり、ピッキングの強さによる、サウンドの変化を調整するのに向いています。

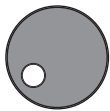
チャンネル1 & 2の**MIDDLE**(ミドル) コントロールは、チャンネル3 & 4と、異なるカーブ特性と値に設計されています。低め(1 2時未満)に設定すると、通常の中域コントローラーとして動作しますので、中域の増し方もノーマルです。7時から10時半位で、クリーン・サウンドになり、これにトレブルと、バスのコントロールを加えることで、さらに純粹でクリーンな、弾けるようなサウンドになります。



TREBLE



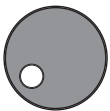
MID



チャンネル1 & 2の**MIDDLE**(ミドル) コントロールを、1時を超える設定にすると、ゲインが増して、中域に切れとパンチが出てきます。これをさらに高い(3時から5時)設定にすると、CLEAN(クリーン)モードと、TWEED(ツイード)モードで極端な設定をした時のような、ゲインを得る事が出来ます。**MIDDLE**(ミドル) コントロールを、高い設定にする場合は、他のトーン・コントロールの設定は抑えめにした方が良いでしょう。チャンネル1 & 2の**MIDDLE**(ミドル) コントロールの柔軟性の高さが、チャンネル1 & 2のサウンド・バリエーションの豊富さを支えているのです。

BASS (バス):

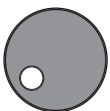
BASS(バス)は、トーン・コントロールの信号経路の中で一番最後になります。このコントロールは、4つのチャンネルに個別に動作し、サウンドの低域の量をコントロールします。しかし、実際の効き具合はチャンネル毎に変化します。**MIDDLE**(ミドル) コントロールの時と同様に、信号は**TREBLE**(トレブル) コントロールを通った後に来ますので、**TREBLE**(トレブル) コントロールの設定が高いと、**BASS**(バス)と**MIDDLE**(ミドル) コントロールの効果は少なくなってしまいます。反対に**TREBLE**(トレブル) コントロールの設定が低いと、**BASS**(バス)と**MIDDLE**(ミドル) コントロールの効果は大きくなります。



MID

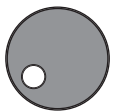


BASS



3つのトーン・コントロールで、最もバランスのとれたサウンドやパワーを生み出す為には、まず**TREBLE**(トレブル) コントロールを中位に設定する事から始めて下さい。これにより、それぞれのトーン・コントローラーが本来の働きをする事が出来る様になります。

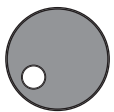
PRESENCE (プレゼンス):



BASS



PRESENCE



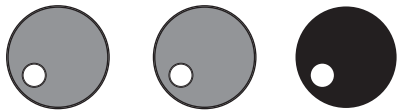
PRESENCE(プレゼンス) コントロールは、プリアンプの最終ステージにある高音域のアッテネーターであり、**TREBLE**(トレブル) コントロールよりも高い音域に影響を与えます。プレゼンス・コントロールは、他のトーン・コントロールとは独立して動作します。**PRESENCE**(プレゼンス) コントロールを低めに設定すると、暗めのサウンドになり、太くてコンプレッションのかかった、単音のソロ・サウンドに向けた音になります。**Roadster**の中でも良いリード・サウンドは、**PRESENCE**(プレゼンス) コントロールが低めに設定されており、バランスのとれた、ボーカルのようなレスポンスを生み出しています。

プレゼンス・コントロールを高めに設定すると、**Roadster**は解き放たれて、チャンネル1 & 2では、弾けるようなクリーン・サウンドを、ハイ・ゲイン・モードでは、アグレッシブなクランチ・リズム・サウンドを生み出します。**PRESENCE**(プレゼンス) コントロールは、チャンネル3の**MODERN**(モダン)に隠されているサウンドを引き出してくれます。

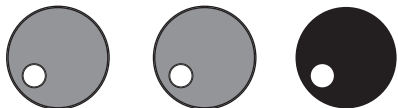
コントロール(続き):

MASTER(マスター):

このコントローラーは、プリアンプの最終段の出力レベルをコントロールします。そして、ここでコントロールされたレベルで、ドライバー・ステージやエフェクト・ループに送られます。**MASTER**(マスター)コントロールは、チャンネル毎に独立していますので、4つの各チャンネルは、互いになんの影響を受ける事も無く、それぞれの出力音量を設定する事が出来ます。MASTER(マスター)コントロールは、ロー・ゲイン・サウンドを大きなボリュームで鳴らす事も、ハイ・ゲイン・サウンドを小さな音量で鳴らす事も出来る、幅広い能力を備えています。



BASS PRESENCE MASTER

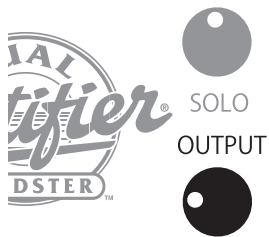


広いレンジの中でも、特に微妙なコントロールが効く範囲は、9時から2時の間です。出来る限り、この範囲で調整した方が、エフェクト・ループを使用する場合も、より良い結果が得られるでしょう。

ノート: MASTER(マスター)コントロールは、エフェクト・ループへの送りのレベルもコントロールしているので、これを極端に高い設定にすると、過大な信号がエフェクト・プロセッサーに送られる事になり、結果的に、エフェクト・プロセッサーの入力段で、オーバーロードする事になってしまいますので、注意が必要です。

OUTPUT CONTROL(アウトプット・コントロール):

これは、アンプの最終的な出力レベルをコントロールします。パワー・セクションの入力部に位置しており、4つのチャンネルの各チャンネル・マスターでコントロールされた音声信号を出力する、最終的なレベルをコントロールします。**OUTPUT**(アウトプット)には、LOOPのEFFECTS RETURN(エフェクト・リターン)ジャックへの信号が出力されますので、このコントロールは、EFFECTS LOOP(エフェクト・ループ)がLOOP SYSTEM ACTIVE(ループ・システム・アクティブ)に設定されている時のみ有効です。LOOP BYPASS(ループ・バイパス)に設定されていると、各チャンネルのチャンネル・マスター・コントロールが最終的な出力レベル設定になります。



ノート: Roadsterをパワー・アンプとして使用する

プリアンプは他の製品を使用して、Roadsterをパワー・アンプとして使用する事も出来ます。大規模な会場で、ステレオ・パワーの片方として、あるいは、もう1台のRoadsterのスレーブとして使用する方法です;

- 1.) 他のプリアンプの出力を、LOOPのEFFECTS RETURN(エフェクト・リターン)ジャックに接続する。
- 2.) リア・パネルで、LOOP ACTIVE(ループ・アクティブ)に設定する。
- 3.) OUTPUT CONTROL(アウトプット・コントロール)で、出力レベルを調整する。
- 4.) チャンネルのPRESENCE(プレゼンス)コントロールを調整する。
- 5.) チャンネルを選択して、そのチャンネルのパワー設定をする。

この使用法は、ネガティブ・フィードバックが無くなってしまい、パワー・アンプに対する負荷が、極端に大きくなってしまいますので、チャンネル3 & 4のMODERN(モダン)モードで、この使用法は、お勧め出来ません。EFFECTS LOOP RETURN(エフェクト・ループ・リターン)をパワー・アンプの入力端子として、4チャンネル全てを使用する場合は、チャンネル1 & 2のCLEAN(クリーン)モードか、チャンネル3 & 4のRAW(ロウ)モードを使用する事を推奨します。この使い方であれば、入力感度がある程度一定ですので、出力ボリュームを、パワー・アンプで調整する事が出来ます。

コントロール部分: (続き)

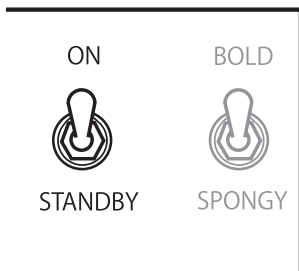
SOLO (ソロ) コントロール:



このコントロールは、メイン・アウトプットに並列に接続されており、予め設定したレベル (元のレベルよりも高いレベル) に、演奏の途中で切り替える機能であり、アンプに、信じられない程のポテンシャルを与えてくれます。OUTPUT (アウトプット) コントロール同様、SOLO (ソロ) も、LOOPのEFFECTS RETURN (エフェクト・リターン) ジャックへの信号をコントロールしますので、EFFECTS LOOP (エフェクト・ループ) がLOOP SYSTEM INループ・システム・イン) になっている時のみ有効になります。このコントローラーは、ソロになった時に音量を上げたり、スイッチングした時の音量差を、補正したりする為に使用する事が出来ます。1つの例としては、LOOP (ループ) 経由で接続したプロセッサーによる、ゲインの減衰が考えられます。このような場合でも、SOLO (ソロ) 機能がゲインの減衰を補ってくれるのです。

ノート: 上述した様に、Roadsterをスレーブのパワー・アンプとして使用する場合は、SOLO (ソロ) コントロールを、パワー・アンプのフット・スイッチ切り替え式ボリューム・ブースターとして使用する事が出来ます。

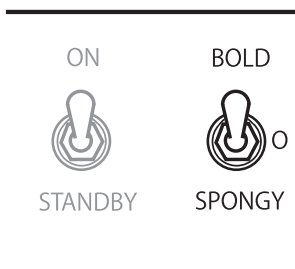
STANDBY (スタンバイ):



このトグル・スイッチは大変重要な役割を担っています。このスイッチがスタンバイの位置にある時は、真空管はまだ準備段階で、ウォームアップをしています。電源を入れる時は、このスイッチがスタンバイの位置にある事を確認して下さい。

電源を入れてから、最低30秒の時間をおいてから、このスイッチをオンにする様にして下さい。

POWER: BOLD / OFF / SPONGY



ROADSTERでは、内蔵のVariac (可変電圧) 機能により、SPONGY (スポンジー) / BOLD (ボールド) の2種類の電源電圧を切り替える事が出来ます。

SPONGY: これは、内部で電源電圧を下げる事により、TUBE RECTIFIERと相まって、アンプのサウンドが、柔らかくルーズな感覚になります。クリーン・サウンドは、中域が抜けて、ハイ・エンドの倍音成分が強調されたサウンドになります。オーバードライブ・サウンドは、広がりが出て、ルーズな感覚で少し明るくなります。RECTIFIER SELECTスイッチをTUBE RECTIFIERに設定して、SPONGY (スポンジー) と組み合わせると、独特なクリップ・サウンドになります。もう1つ良い点は、SPONGYにすると、真空管に掛かる電圧が低くなるので、真空管の寿命が長くなるのと同時に信頼性も上がります。

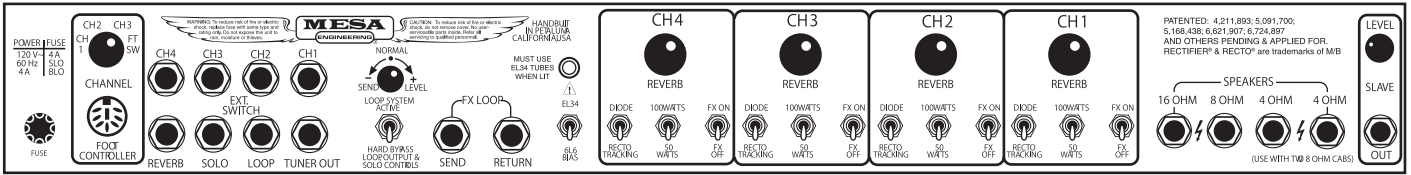
この理由だけで、SPONGYしか使わないというような事はしないで下さい。われわれは、BOLD (ボールド) で使用しても十分な信頼性が得られる様に設計しています。我々の長年に渡る、アンプ製造の経験、そして、世界中のユーザーの声からしても、真空管の信頼性は、確かなものです。殆どのユーザーは、サウンドが劣化して真空管の交換が必要になるまで、お使いいただいています。

BOLD (ボールド): これは、電源電圧を内部で下げる事無く、通常の動作で使用するモードです。この設定は、2つのクリーン・チャンネルで、最も大きなヘッドルームを得られます。また、2つのハイ・ゲイン・チャンネルでは、明瞭度があり、低音域がタイトなサウンドが得られます。この設定は、ライブに最も向いており、最も汎用性の高い、強力なモードです。

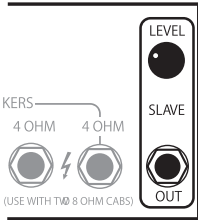
そうする事で、真空管のトラブルを予防出来ますし、良い音で使用出来る期間が長くなります。

バックパネル:

バックパネル: Roadster Combo



スレーブ:



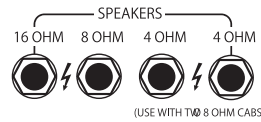
このフォーン・ジャックとコントローラーは、スピーカー・ジャックへの信号を出力する事が出来ます。このジャックに、他のパワーアンプ(デュアルあるいはトリプル・ヘッド)を接続して、Roadsterを、マスター・プリアンプとして使用する事が出来ます。また、SLAVE(スレーブ)を、エフェクト・プロセッサーに出力して、エフェクト・プロセッサーの出力を他のアンプに接続するという、使い方も可能です。

ノート: SLAVE(スレーブ)ジャックの出力を、エフェクト・ループのRETURN(リターン)ジャックに接続しないで下さい。この接続をすると、フィードバック・ループが作られてしまい、ハウリングが起こって、機器を破損する可能性があります。

スピーカー:

スピーカーへの接続端子として、4オーム2基、8オーム1基、16オーム1基のジャックが装備されています。Roadsterは、スピーカー・インピーダンスのミスマッチに関しては許容範囲が広いので、ほとんど問題になる事はありませんが、あまりにも低いインピーダンスのスピーカーを接続すると、パワー管の寿命を縮める事になりますので、注意して下さい。12インチ、8オームのスピーカー1台を8オームのジャックに接続して下さい。8オームのスピーカーを2台使用する場合は、(この場合は合成抵抗が4オームになるので)それぞれ4オームのジャックに接続して下さい。このマニュアルの後半に、スピーカー・インピーダンスに関する解説と接続方法に関する情報がありますので、是非ご覧下さい。

PATENTED: 4,211,893; 5,091,700;
5,168,438; 6,621,907; 6,724,897
AND OTHERS PENDING & APPLIED FOR.
RECTIFIER® & RECTO® are trademarks of M/B



4x12 キャビネットは、大抵、4オーム、8オーム、16オームのどれかです。キャビネットのインピーダンスが解らない場合は、リア・パネルを外すと、各スピーカー・ユニットに刻印があるはずですが、MESA/Boogie(メサブギー)の4x12と4x10 キャビネットは、シリーズ・パラレル接続の8オームです。MESA(メサ)4x12以外のキャビネットの中には、4基の16オームスピーカー・ユニットがパラレル接続された、インピーダンスが4オームのキャビネットもあります。他にも様々な組み合わせのキャビネットを接続する事が出来ますので、いろいろ試して下さい。

リバーブ:

これらの4つのつまみでアナログ・リバーブのドライ/ウェットの比率の調節を行い、ここで設定されたバランスがリバーブのリターン回路へと送られます。チャンネル毎の独立したつまみにより、それぞれのチャンネルで異なるリバーブの値を設定することが可能です。このつまみの調整により、ナチュラルなリバーブからウェットなリバーブまで幅広い調節を行うことが可能です。また、チャンネルのモード設定やプリアンプのゲインの値、チャンネル・マスター出力レベルやアウトプット出力レベルの値を変更することで、リバーブの効果は変化していきます。一般的にハイゲインに設定した場合リバーブはよりウェット感を増し、逆にクリーンサウンドでは濁りのないピュアなリバーブサウンドを生成します。この特性は、この回路ならではの有効な特性と言えるでしょう。



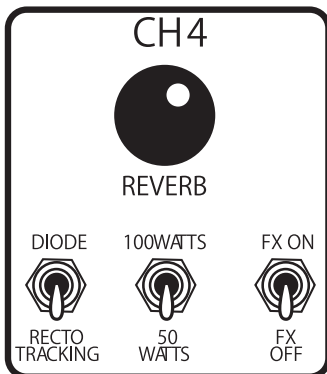
またリバーブはフットコントローラーのスイッチによってもオン/オフの切り替えが可能です。

注意: フットスイッチによるオン/オフやチャンネル切り替えを行った際、リバーブの効果は概ね1~2秒ほど遅れて発生します。これはリバーブ・オフ時にハードバイパスする回路設計、及びリバーブ・オン時やチャンネル切り替え時のスイッチングノイズを防止する回路の特性上発生する事象となっており、リバーブユニットや回路の異常等ではございません。

バックパネル(続き):

チャンネル・ストリップ:

3つのミニ・トグル・スイッチと、1つのコントローラーは、各チャンネル毎に、事前にアサインしておく事が出来ます。4つとも構成は同じですので、1つ理解すれば大丈夫です。このパートは、Roadsterの大きな秘密の1つです。



このセクションでは、LOOP オン/オフ、出力切替(50W/100W)、整流器のタイプの選択、そして、リバーブレベルの設定が出来ます。

TUBE TRACKING(真空管整流)/DIODE(ダイオード整流):

弊社が特許を有するこの切り替え機能は、異なるサウンド・フィーリングの2種類の整流器を選択します。この機能は、デュアル・レクティフィア・ヘッドアンプに初めて採用され、その後も、全てのデュアル・レクティフィアシリーズに装備されています。レクティフィア・シリーズ以外にも、Maverick、Heartbreaker、Blue Angel等に搭載されています。

Roadsterアンプでは、チャンネル毎にRECTIFIER SELECT整流器選択が備えられており、プリアンプとパワーアンプの兼ね合いによって選択出来ます。この2つの選択肢にはそれぞれ、状況に於ける優劣と、スタイルの違いがあります。各チャンネルで、この選択を切り替えると、明らかにサウンドの違いが現れます。

DIODE(ダイオード整流):

こちらは、半導体のダイオード整流を選択します。パンチの効いた、タイトなアタックの明るいサウンドになり、ヘッドルームが大きくなります。この設定は、大音量のクリーン・サウンド、ハイ・ゲインのタイトなリズム・サウンド、そしてタイトな低音が欲しい方に向いています。

TUBE TRACKING(真空管整流):

これは、往年の真空管アンプに尊敬の念を捧げるモードです。アンプの創成期には、整流器は真空管しかありませんでした。しかしその後、たった5セントの凄く効率の良い半導体ダイオードが出現し、高出力のアンプが安価で制作される様になります。そうすると、真空管アンプはいつの日か過去の遺物と化してしまうのではないかと思えた時期もありました。しかし、太くて、大音量で、効率が良いアンプに、何か足りないものがある事に、多くの人が気付く様になります。そうです、魂です。

私達がデュアル・レクティフィア・シリーズに込めているものとは、何なのでしょう。それは、繋げば音が出るたんなる機械ではなく、魂を注ぎ込む事の出来るアンプなのです。真空管整流モードにすると、優しく暖かみのあるサウンドが生み出されます。このサウンドは他に真似の出来ないものです。チャンネル2と3では、このモードにすると、単音のリード・サウンドに向けたサウンドになります。また、RAW(ロウ)モードとVINTAGE(ビンテージ)モードでは、暖かいサウンドになります。これは、本物のビンテージ・アンプ以外では出せるものではありません。

このスイッチを、TUBE TRACKING(真空管整流)にすることで、適切な量の真空管整流が行われます。そして、出力はバック・パネルの100W/50W切替スイッチでチャンネル毎に設定します。50ワットにすると、5U4を使用してクリップ・サウンドを生み出します。100ワットを選択すると、2基の5U4が有効になり、高レベルの出力を可能にします。この設定により、弾けるようなクリーン・サウンドから、太くて荒々しいクランチ・リズム・サウンドそして、ソウルフルなリード・サウンドまで、様々なサウンドを生み出す事が出来ます。

バックパネル(続き):

FX ON / FX OFF スイッチ:

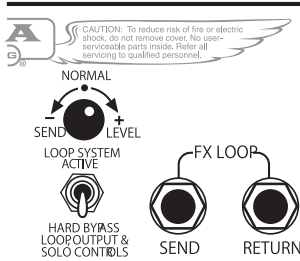


各チャンネル毎に装備されたこのミニトグル・スイッチにより、チャンネルごとに独立したエフェクトループのオン/オフの切り替えを行うことができます。ループをオンに設定した場合は、フロントパネルのFX LOOP LEDインジケーターが点灯し、現在のステータスが一目でわかるようになっています。LOOPに関する詳細はEFFECT LOOPの項をご参照ください。

注意:FX LOOPセクションはリアパネルに設置されたこのスイッチをオンにすることで有効となります。オフになっているとLOOP機能は無効となりますのでご注意ください。

エフェクト・ループ

Roadsterは外部のエフェクトプロセッサへのシリーズ(直列)エフェクト・ループに適合するようセッティングされています。LOOP回路はプリアンプとパワーアンプとの間に組み込まれており、多くの良質なエフェクトプロセッサに採用されている入出力レベルと一致するようにセットアップされています。SENDレベル・コントロールはプリアンプからの信号と極端なチャンネル・マスター出力の設定を行った際の誤差を微調整するために用意されています。



FX LOOPのON/OFF切り替えは、リアパネルに設置されたミニトグルスイッチによりチャンネル毎に設定することが可能です。このミニトグルスイッチはLOOP SEND / RETURNジャックの隣にあるMaster LOOP SYSTEM IN/BYPASSスイッチを経由しています。フットスイッチやチャンネル・セレクト・ロータリー・スイッチ等で選択されたチャンネルがFX ONに設定されていれば、自動的にLOOP回路が有効となります。また前述のとおり、フロントパネルのOUTPUT、SOLOコントロールは、エフェクトループのリターン回路と接続されているため、エフェクトループがOFFの状態ではこの二つのコントロールは無効になります。

LOOP SYSTEM IN/HARD BYPASSスイッチでHARD BYPASSを選択した場合、ループ回路はアンプの信号経路から完全に切り離されます。このスイッチはEFFECT SENDとRETURNジャック、SENDレベル・コントロール、OUTPUT、SOLOコントロールの全ての回路と関連付けられています。LOOP BYPASSをONにするとこれら全ての回路が信号経路から切り離され、チャンネル毎に設置されたMASTERコントロールが、最終的なマスターレベル・コントロールとして機能します。このハード・バイパス機能により、スタジオ・レコーディング等でのエフェクトの後処理が可能な状況において、一切の不純物を含まない、純粋なサウンドを出力することができ、最も良いサウンドでのレコーディングが可能となります。

注意:FX LOOPスイッチをフットコントローラーによるチューナーMUTEとして使用する場合、LOOP SYSTEMをINにしておく必要があります。

エフェクトのパッチ: 次の手順でエフェクト・プロセッサを接続して下さい。

- 1.) エフェクト・プロセッサの入力端子とSEND・ジャックを接続する。
- 2.) エフェクト・プロセッサの出力端子とリターン・ジャックを接続する。
- 3.) 4チャンネルそれぞれを、好みに応じたサウンドに設定して下さい。各チャンネルのMASTER(マスター)を適正なボリューム、そしてバランスになる様に設定する事を心がけて下さい。
- 4.) LOOP SELECTスイッチを、LOOP SYSTEM INの位置に設定します。
- 5.) SEND(SEND)レベル・コントロールで、エフェクト・プロセッサへの出力レベルを調整して、どのチャンネルの信号を送っても、クリップしない様にします。
- 6.) ドライ(元の音)とウェット(エフェクト音)のバランスを、エフェクト・プロセッサのミックスコントロールで調整して下さい。
- 7.) フロント・パネルのOUTPUT(出力音量)コントロールで、アンプから出力される最終的なボリュームを調整して下さい。

バックパネル(続き):

エフェクトのパッチ(続き):

FXループを外部のラックタイプのエフェクトプロセッサと接続する場合、1m以上のケーブルを使用するとアンプから出力される音が劣化する場合があります。使用の際は1m以下のケーブルを使うことをお勧めします。

注意:FX LOOPはメイン信号と直列で配線されるため、信頼性のあるプロフェッショナル・クオリティのエフェクト・プロセッサをお選びいただくことは非常に重要なことです。アンプの音作りにおいて、最も重要な個所への接続となるので、最終的に出力されるサウンドは、この接続したエフェクトプロセッサの出力レベルに完全に依存する形となります。

FX リターンをパワー・アンプ入力としてご使用:

より大きな出力を必要とする状況下において、Roadsterをステレオ出力システムにおける片側チャンネル用の単独のパワーアンプとして使用する場合、チャンネルの選択や接続方法等、最良な形となるように、以下の指示に従って接続を行うようにしてください。

- 1.)FX LOOPスイッチは必ずINに設定してください。
- 2.)FX RETURNジャックをパワーセクションへのインプットとして使用します。このジャックはプリアンプのゲインやトーン・コントロール回路をバイパス(このジャックよりも手前の回路となるため)します。
- 3.)この際、OUTPUTがパワーセクションにおけるレベル・コントロールとなります。
- 4.)フットスイッチが接続されている場合、SOLOコントロールによりボリューム・ブーストを行うことができます。
- 5.)会場の規模や出力の必要に応じて、チャンネル毎の出力切り替えにより最適な出力を確保することをお勧めします。
- 6.)RoadsterのFX RETURN端子をパワーセクションのインプットとして使用した場合、整流部の切り替えは有効となります。多くの単体のパワーアンプはシリコンダイオードを採用していますが、ギターに特化した場合、整流管(Tube Rectifier)の使用による、より甘くウォームなギタートーンを創り出すという選択肢もあります。

注意:クリーンサウンドの場合、ドライブサウンドと比較した際に、聴感上は同じボリュームであっても、エフェクトプロセッサの入力インジケータは、より大きな入力信号として表示されます。しかしながらそれは大きな問題ではありません。ただし、チャンネル毎の出力レベルを調整する際には多少気になることがあるかもしれません。そういった場合にはチャンネル毎の出力レベルの相対的なバランスを整え、聴感上違和感のない値に設定することをお勧めします。その際エフェクトプロセッサの入力に関してはクリッピングが起きない範囲であれば気にする必要はありません。もしもクリッピングが起るようであればチャンネル毎のマスターコントロールを少し下げ気味にし、OUTPUTコントロールで最終出力レベルを調整することをお勧めします。

注意:まず始めに、最も重要なこととしてEFFECT LOOPは定格出力信号での使用において最も優れた信号特性となるように設計されているという事です。エフェクトプロセッサ側のインプット、またはアウトプットのレベルを定格出力以上に設定してしまうと高音のハウリングやフィードバックを起こしてしまう危険性があります。これはエフェクト・プロセッサのインプット、及びアウトプットのステージにおける過剰入力が、結果としてSENDとRETURNのジャックが直接コネクされる形となり、RoadsterのEFFECT LOOPに本来保持されるべき入力と出力の相互バランスが崩れてしまう結果となるのです。それならば回路上でその相互のバランスを取ることが出来ないか、という事になりますが、これは結果として最良のトーンを作り出す上で余計な回路となってしまうのです。これはあらゆるアンプの製造において常に課題となっていることでもありますが、私たちはこういった問題において、常に「音」を最優先に考えています。適切な用法、そして高水準のエフェクトプロセッサをお選びいただければ、全く問題ないのです。

ハイクオリティのアンプで最良の音を出すためには、外部に接続する機器もハイグレードなものをお選びいただくべきだと私たちは考えています。どんなに高性能なアンプでも、低品質の製品と組み合わせれば音質の劣化や余計なフィードバックに悩まされてしまうことになり得るのです。

注意:

LOOP BYPASSは2本の12AX7とOUTPUT、SOLOコントロールを含む全てのループ回路を信号経路から切り離します。

バックパネル(続き):

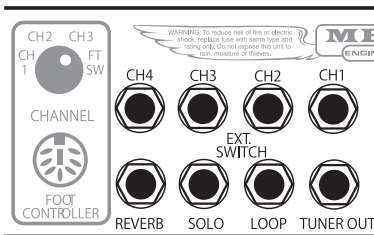
FX リターンをパワー・アンプ入力としてご使用(続き):

注意: RoadsterのEFFECT RETURNジャックをパワーアンプのインプットとして使用する場合、最も「ノーマル」なサウンドはCHANNEL1もしくはCHANNEL2となります。より大きなパワーを得るのであれば、CHANNEL3やCHANNEL4を使用するのも一つの方法でしょう。

これは10単位でアンプの入力感度を調整します。注意すべきことは、これによりアンプの出力レベルがより敏感になると同時に、音もラウドになります。パワーアンプとしてRoadsterを使用する場合はマニュアルのCONTROLセクションの項をお読みください。

外部スイッチング:

この7つのジャックに、外部マスター・スイッチング機器を接続する事で、4つのチャンネル、ループ、リバーブ、ソロ機能をコントロールする事が出来ます。外部マスター・スイッチング機器がMIDIに対応していれば、アンプの設定と、エフェクト・プロセッサの設定をプログラムしておいて、MIDIで切り替える事も出来ます。このポートは、シンプルなチップ・トゥー・グランドのロジックで動作しますので、殆どのマスター・スイッチング機器を使用する事が出来ます。

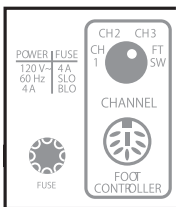


EXTERNAL SWITCHING (外部スイッチ) ジャックは、ROADSTERのフット・コントローラーに優先します。このポートでトリガーをオンにした機能は、このポートでオフにしない限りオフにはなりません。

TUNER OUT (チューナー出力):

チューナーを接続します。この出力ジャックには、最初のゲイン・ステージのクリーンな音が出力されます。このアンプには、消音チューナー機能が備わっています。この機能は、フット・スイッチのTUNER (チューナー) ペダルをオンにすると、スピーカーに音を出さず、TUNER OUT (チューナー出力) にのみ音を出力する機能です。これにより、バンド演奏を妨げたり、聴衆に音を聞かせることなく、チューニングをする事が出来ます。

電源ソケット:



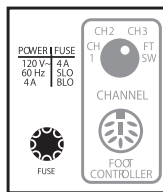
ヨーロッパスタイルの取り外し可能な電源コードをこのソケットに差し込みます。別売でより強力な電源コードも販売しています。アンプの電源を入れる前に、必ず電源コードがソケットにしっかり入っている事を確認して下さい。

メモ: 3芯プラグの電源コードを他のものに変えないで下さい。

バックパネル(続き):

FUSE(ヒューズ):

これはA.C.(交流)のメイン・ヒューズであり、外部の突発的な過電圧等からパワー管を保護する役割を果たします。ヒューズが破損したらSlo-Bloタイプの同じ規格のものと交換して下さい。日本国内の100ボルト仕様には、4アンペアのSlo-Bloヒューズを使用して下さい。ヒューズの破損が原因と見られるパワー管の破損が起きた場合は、次の手順を踏んで下さい。スタンバイスイッチのセクションでも触れましたが、スタンバイをオフからオンに切り替えた時のパワー管の状態を見て下さい。この時パワー管が正常でないと確認出来たら、即座にスタンバイをオフにして、パワー管を交換し、必要に応じてヒューズも交換して下さい。



パワー管に特に異常が見られなければ、スタンバイをオフからオンに切り替えて下さい。この場合は、パワー管がたまたま損傷し、それが原因でヒューズが飛んだと考えられます。念のために隣の真空管、あるいは“ショットガン”トラブル・シューティングで全ての真空管を交換して、損傷していない真空管を、予備として保管するのも一つの方法です。予備の真空管は、同じく予備のヒューズと一緒に保管しておくといいでしょう。

これで、リア・パネルの説明が一通り終了しました。あとは、実際に音を出して、ご自身のオリジナルサウンドを作る事に集中して下さい。このあとに、サンプル設定を用意してありますので、それを参考にするのも良いでしょう。

私達はこれから、生涯にわたって、未長いおつきあいを願っています。この新たなアンプが、あなたの音楽制作に、少しでもお役に立てればと思います。

休息場



サンプル・セッティング

CHANNEL 1 SETTING #1 Versa Clean

CLEAN							
FAT		GAIN	TREBLE	MID	BASS	PRESENCE	MASTER
TWEED							
CLEAN							
FAT							
BRIT							

DIODE	100 WATTS	FX ON
RECTO TRACKING	50 WATTS	FX OFF

CHANNEL 1 SETTING #2 Spank

CLEAN							
FAT		GAIN	TREBLE	MID	BASS	PRESENCE	MASTER
TWEED							
CLEAN							
FAT							
BRIT							

DIODE	100 WATTS	FX ON
RECTO TRACKING	50 WATTS	FX OFF

CHANNEL 1 SETTING #3 Tweed Howl

CLEAN							
FAT		GAIN	TREBLE	MID	BASS	PRESENCE	MASTER
TWEED							
CLEAN							
FAT							
BRIT							

DIODE	100 WATTS	FX ON
RECTO TRACKING	50 WATTS	FX OFF

CHANNEL 1 SETTING #4 Fat Solo

CLEAN							
FAT		GAIN	TREBLE	MID	BASS	PRESENCE	MASTER
TWEED							
CLEAN							
FAT							
BRIT							

DIODE	100 WATTS	FX ON
RECTO TRACKING	50 WATTS	FX OFF

サンプル・セッティング

CHANNEL 2 SETTING #1 Skinny Skank

CLEAN						
FAT						
TWEED						
CLEAN						
FAT						
BRIT						

DIODE	100 WATTS	FX ON
RECTO TRACKING	50 WATTS	FX OFF

CHANNEL 2 SETTING #2 Rhythm Mix

CLEAN						
FAT						
TWEED						
CLEAN						
FAT						
BRIT						

DIODE	100 WATTS	FX ON
RECTO TRACKING	50 WATTS	FX OFF

CHANNEL 2 SETTING #3 Power Rhythm

CLEAN						
FAT						
TWEED						
CLEAN						
FAT						
BRIT						

DIODE	100 WATTS	FX ON
RECTO TRACKING	50 WATTS	FX OFF

CHANNEL 2 SETTING #4 Brit Grind

CLEAN						
FAT						
TWEED						
CLEAN						
FAT						
BRIT						

DIODE	100 WATTS	FX ON
RECTO TRACKING	50 WATTS	FX OFF

サンプル・セッティング

CHANNEL 3 SETTING #1 Purring Blues

						RAW VINTAGE MODERN
GAIN	TREBLE	MID	BASS	PRESENCE	MASTER	
						RAW VINTAGE MODERN

DIODE	100 WATTS	FX ON
RECTO TRACKING	50 WATTS	FX OFF

CHANNEL 3 SETTING #2 Smooth Grind

						RAW VINTAGE MODERN
GAIN	TREBLE	MID	BASS	PRESENCE	MASTER	
						RAW VINTAGE MODERN

DIODE	100 WATTS	FX ON
RECTO TRACKING	50 WATTS	FX OFF

CHANNEL 3 SETTING #3 Liquid Solo (Recto Vintage)

						RAW VINTAGE MODERN
GAIN	TREBLE	MID	BASS	PRESENCE	MASTER	
						RAW VINTAGE MODERN

DIODE	100 WATTS	FX ON
RECTO TRACKING	50 WATTS	FX OFF

CHANNEL 3 SETTING #4 Giant Fur

						RAW VINTAGE MODERN
GAIN	TREBLE	MID	BASS	PRESENCE	MASTER	
						RAW VINTAGE MODERN

DIODE	100 WATTS	FX ON
RECTO TRACKING	50 WATTS	FX OFF

サンプル・セッティング

CHANNEL 4 SETTING #1 Atlantic Blues

GAIN	TREBLE	MID	BASS	PRESENCE	MASTER	RAW VINTAGE MODERN
						RAW VINTAGE MODERN

DIODE	100 WATTS	FX ON
RECTO TRACKING	50 WATTS	FX OFF

CHANNEL 4 SETTING #2 Stripped Grind

GAIN	TREBLE	MID	BASS	PRESENCE	MASTER	RAW VINTAGE MODERN
						RAW VINTAGE MODERN

DIODE	100 WATTS	FX ON
RECTO TRACKING	50 WATTS	FX OFF

CHANNEL 4 SETTING #3 Hot Liquid Solo

GAIN	TREBLE	MID	BASS	PRESENCE	MASTER	RAW VINTAGE MODERN
						RAW VINTAGE MODERN

DIODE	100 WATTS	FX ON
RECTO TRACKING	50 WATTS	FX OFF

CHANNEL 4 SETTING #4 Recto Modern

GAIN	TREBLE	MID	BASS	PRESENCE	MASTER	RAW VINTAGE MODERN
						RAW VINTAGE MODERN

DIODE	100 WATTS	FX ON
RECTO TRACKING	50 WATTS	FX OFF

スピーカー・インピーダンス・マッチングと接続ガイド:

インピーダンス:

スピーカー接続において最も基本的で重要なのは、位相を正相にする事です。これにより素晴らしい音を出力する事が可能になります。これはそんなに難しい事ではありません。負荷についていくつかの事と、最適な負荷でスピーカーを接続する事を理解すれば良いのです。

MESA/Boogie アンプは、4 オームと 8 オームを扱う事が出来ます。真空管アンプは、4 オーム未満でドライブする事はしないで下さい。;これを行うと、出力トランスを損傷する可能性があります。2 オームを扱う事の出来る数少ないアンプ (例えば MESA (メサ) の Bass 400+) であれば大丈夫です。反対に高い抵抗値 (例えば 16 オーム等) の場合はアンプを傷める事はありません。

ミス・マッチング:

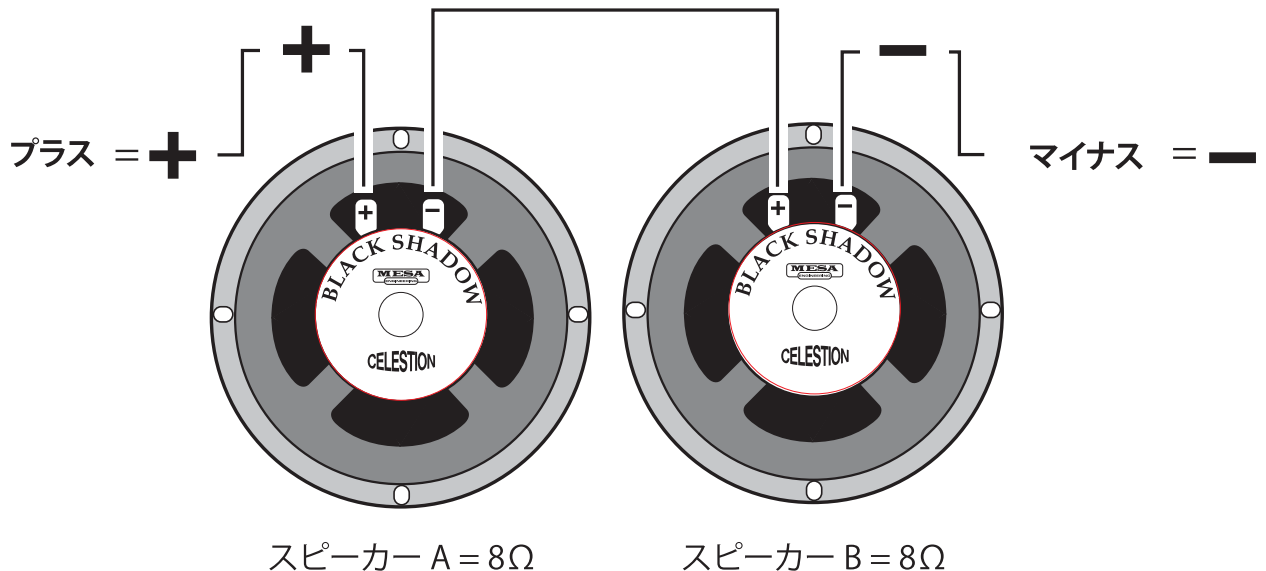
高い抵抗値 (例えば 8 オーム出力を 16 オームのキャビネットに接続) でドライブすると、少しフィーリングが異なり、レスポンスが際立った感じになります。少しのミス・マッチであれば、トーンが若干暗く、出力とアタックが少し弱く、レスポンスが少し速くなる程度です。スピーカー・キャビネットが複数になると、ミスマッチは選択肢の 1 つになるほどです。

キャビネット・インピーダンスの算出方法:

お持ちのスピーカーが 1 台の場合は、そのスピーカーのインピーダンスとアンプのインピーダンスを合わせて下さい。複数のスピーカーをお持ちの場合は、アンプにかかる負荷を計算しなければなりません。複数のスピーカーの接続方法は次の 3 種類になります。:

シリーズ (直列):

スピーカーを直列に接続した場合、それぞれのスピーカーのインピーダンスを単純に加算します。例えば、8 オームのスピーカーを 2 台直列に接続した場合は、16 オームになります。

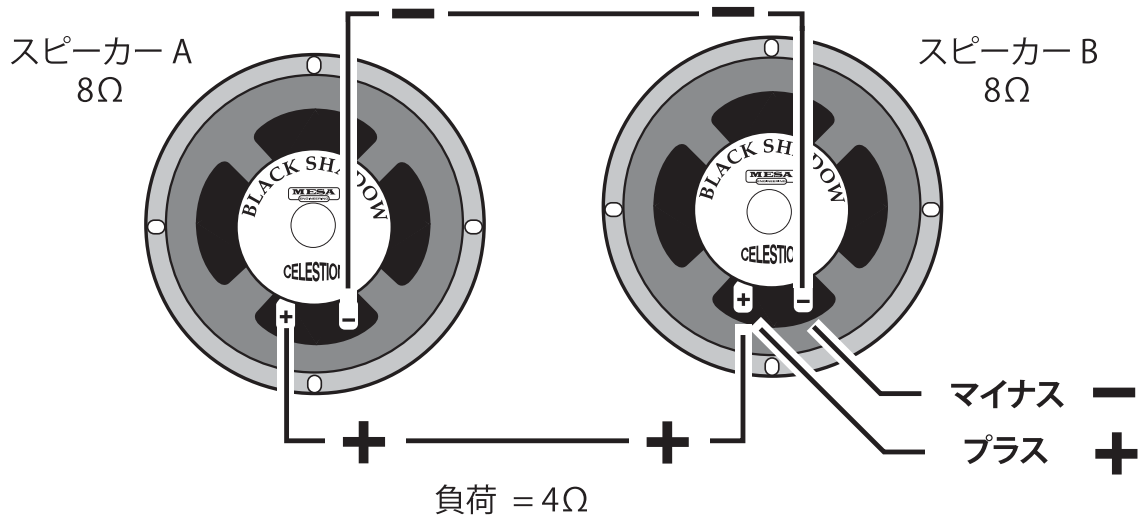


シリーズ (直列): スピーカー A のマイナス端子と
スピーカー B のプラス端子を接続

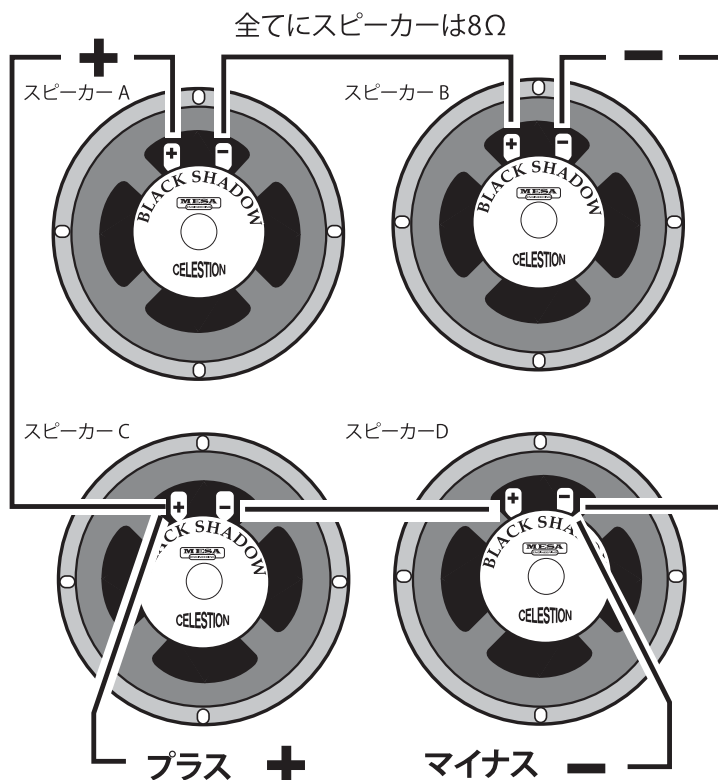
スピーカー・インピーダンス・マッチングと接続ガイド(続き):

パラレル(並列):

スピーカーを並列に接続した場合、スピーカーの抵抗値は下がります。2台の8オーム・スピーカーを並列に接続した場合、負荷は4オームになります。接続するスピーカーが全て同じ抵抗値であれば計算は簡単ですが、異なる抵抗値のスピーカー(例えば、8オームと4オーム、16オームと8オーム等)を並列に接続する場合は、少しややこしくなります。計算式は、それぞれの抵抗値をかけ算した数値を、それぞれの抵抗値を足し算した数値で割ります。例えば8オームと4オームであれば、 $8 \times 4 \div (8 + 4) = 2.6666$ オームになります。パラレル(並列):スピーカーAのプラス端子とスピーカーBのプラス端子、スピーカーAのマイナス端子とスピーカーBのマイナス端子をそれぞれ接続。



シリーズ(直列)とパラレル(並列)の組み合わせ:



これは、2セットの直列接続したスピーカーを並列に接続する組み合わせです。ここで重要なのは、全てのスピーカーの合成抵抗値が低くなり過ぎてアンプに負担をかける様にする事です。

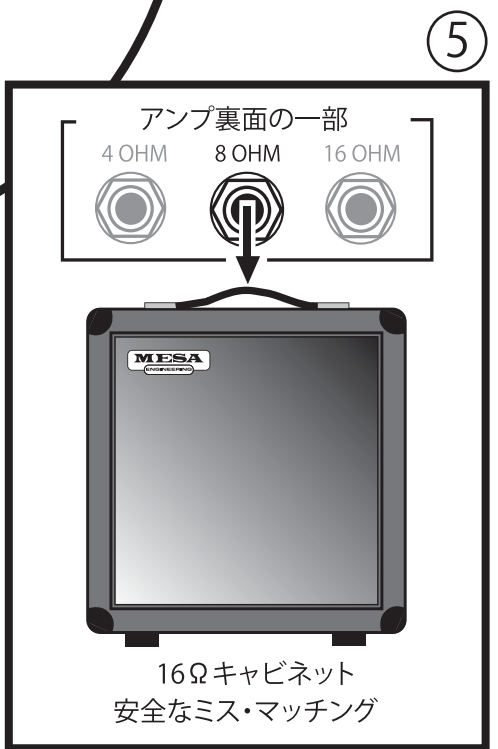
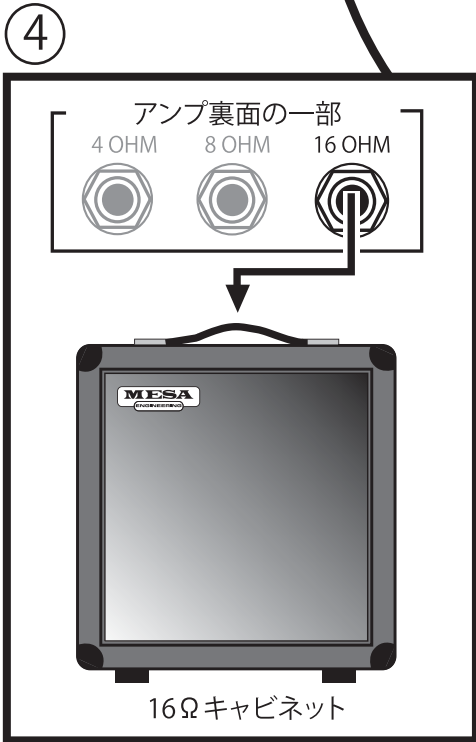
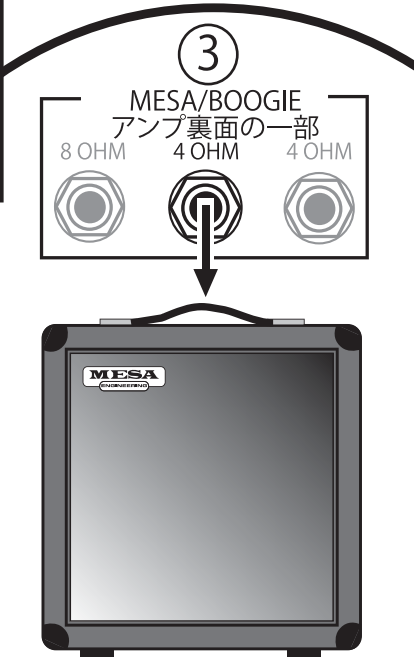
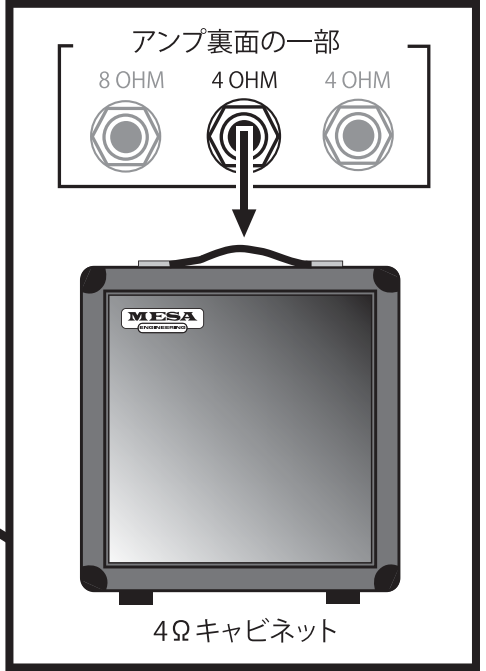
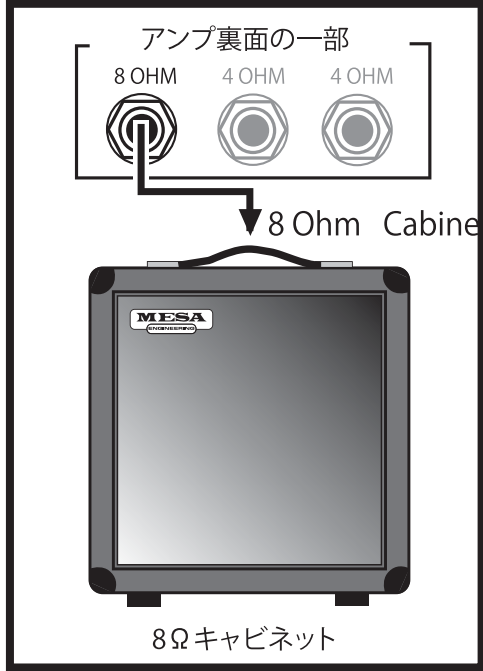
スピーカーAのプラス端子とスピーカーCのプラス端子を接続。

スピーカーAのマイナス端子とスピーカーBのプラス端子を接続。次にスピーカーCのマイナス端子とスピーカーDのプラス端子を接続。

そして最後にスピーカーBのマイナス端子とスピーカーDのマイナス端子を接続します。

4台の8オーム・スピーカーをシリーズ・パラレル接続した時の合成抵抗値は、8オームになります。

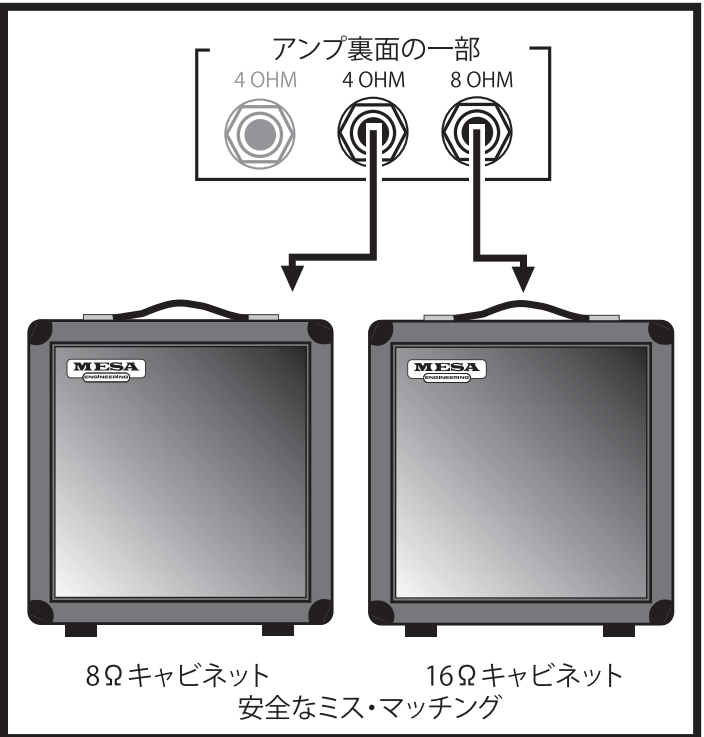
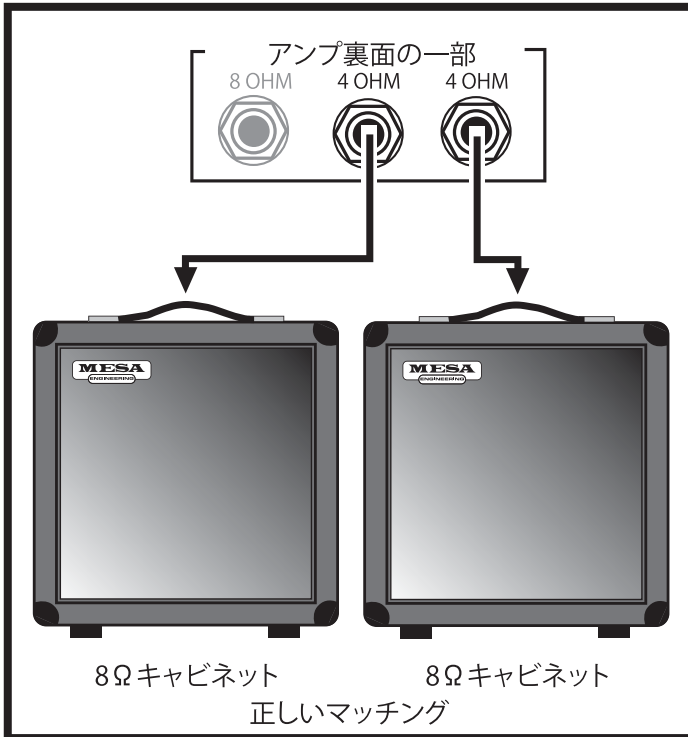
① 接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ ②



接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ

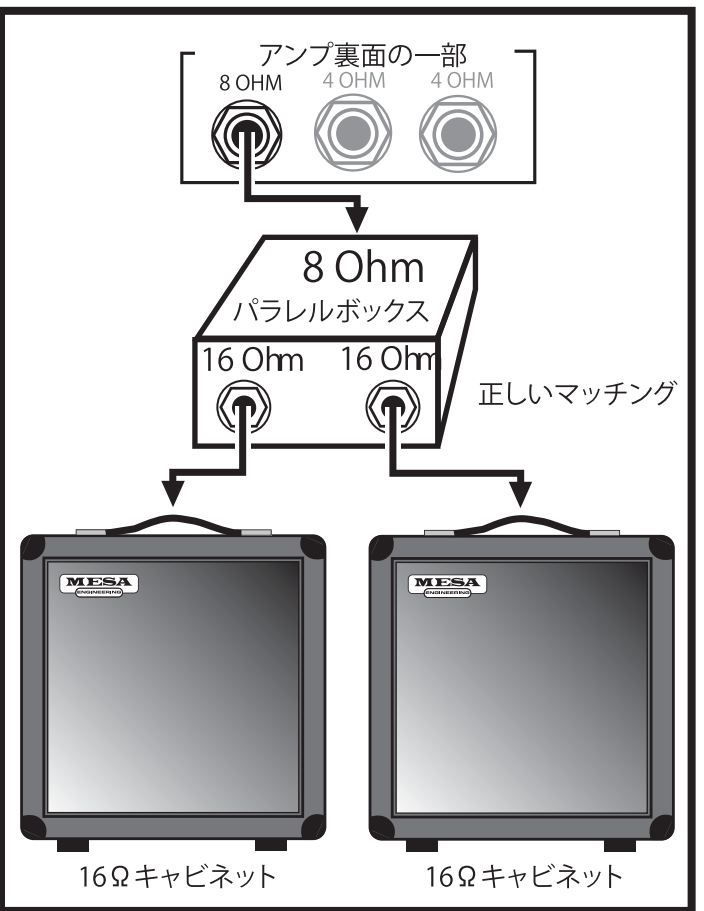
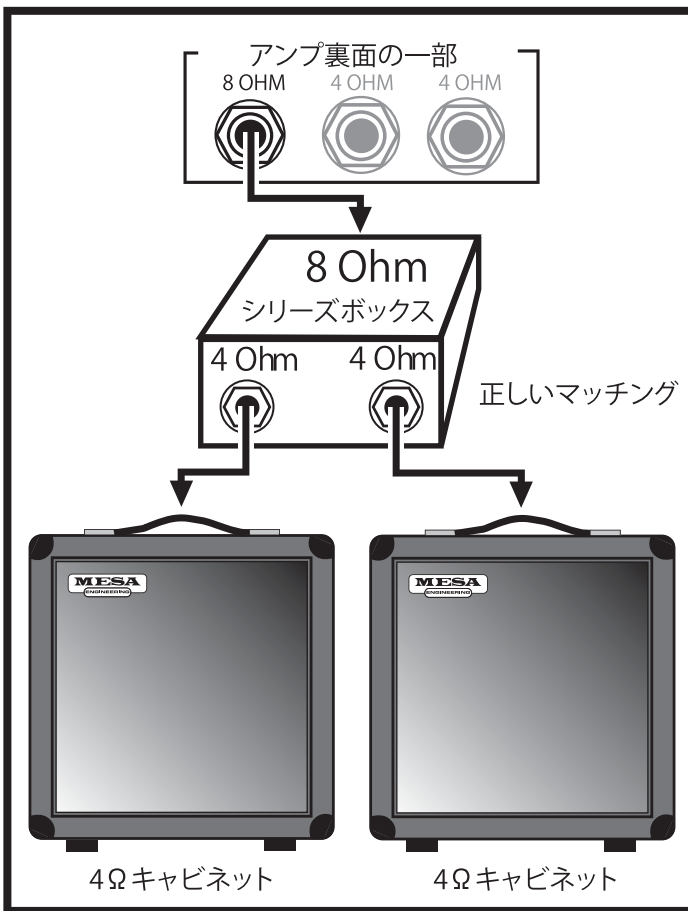
⑥

⑦



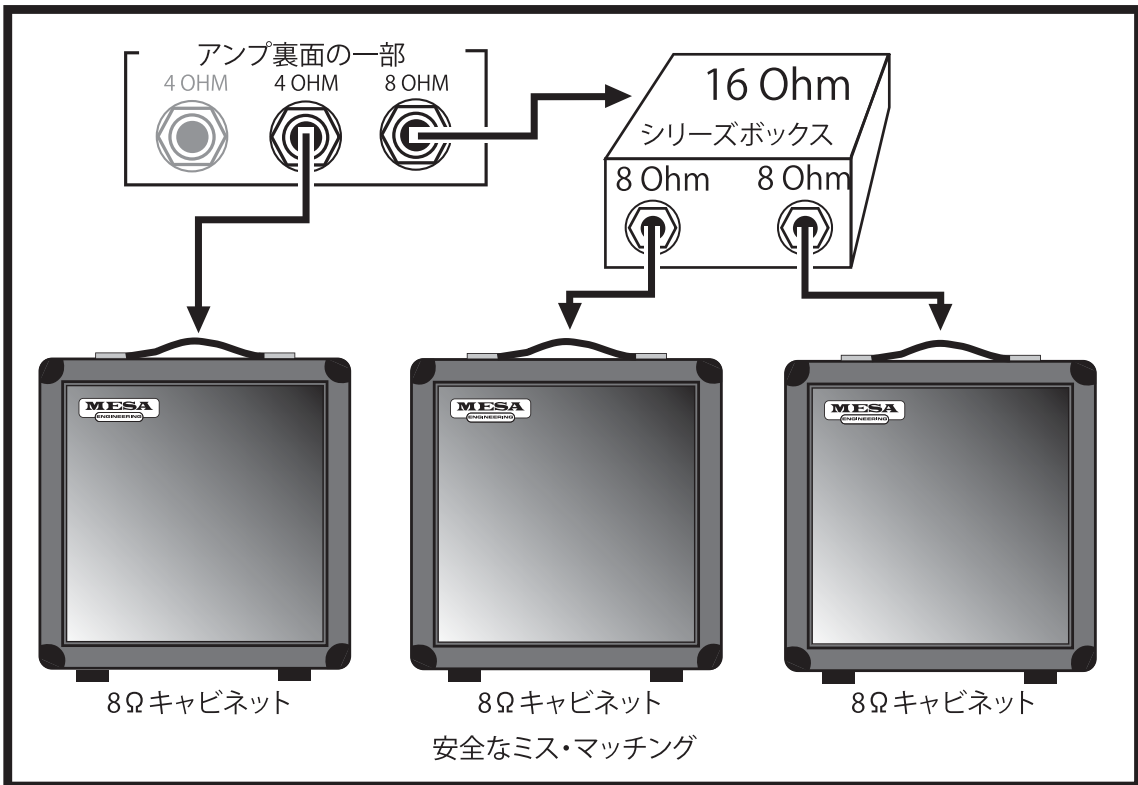
⑧

⑨

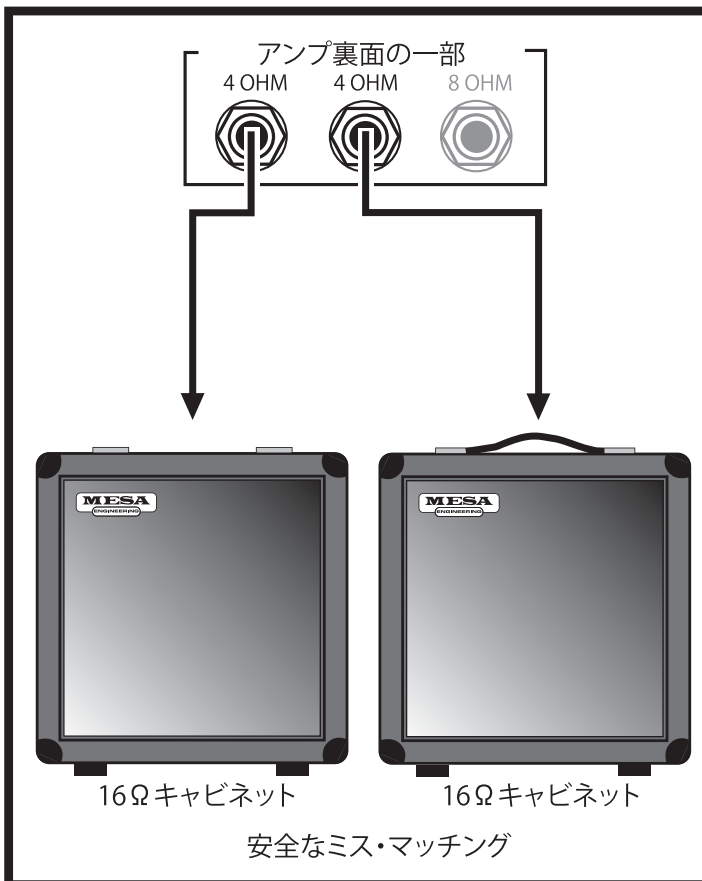


接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ

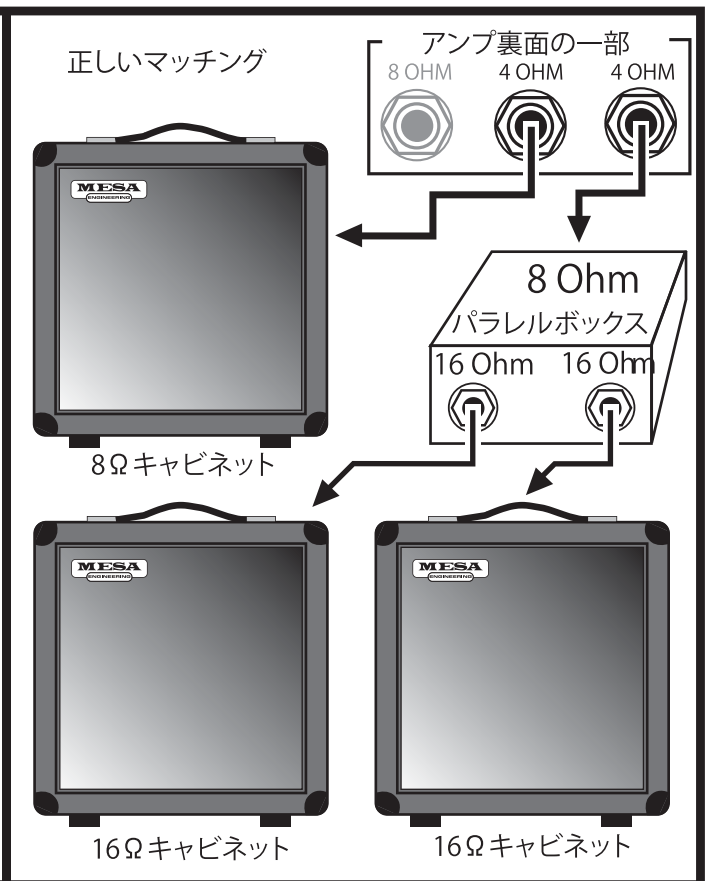
10



11

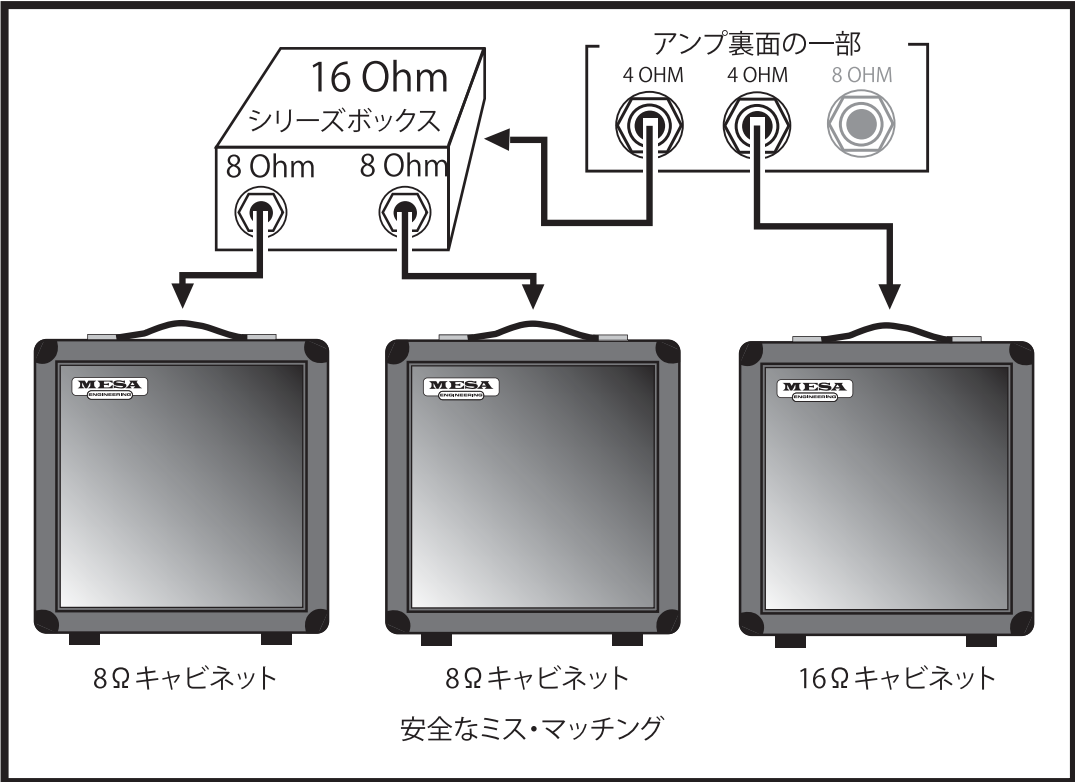


12

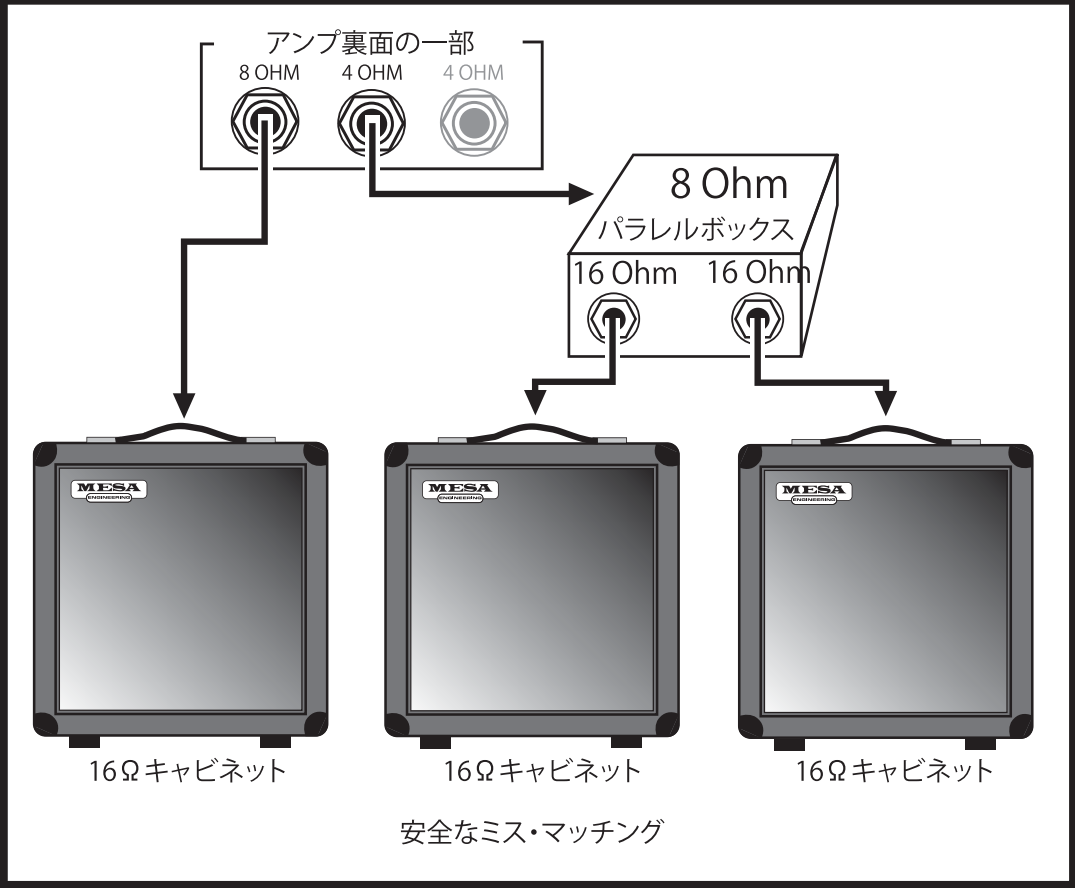


接続方法 - アンプからスピーカーキャビネットへ

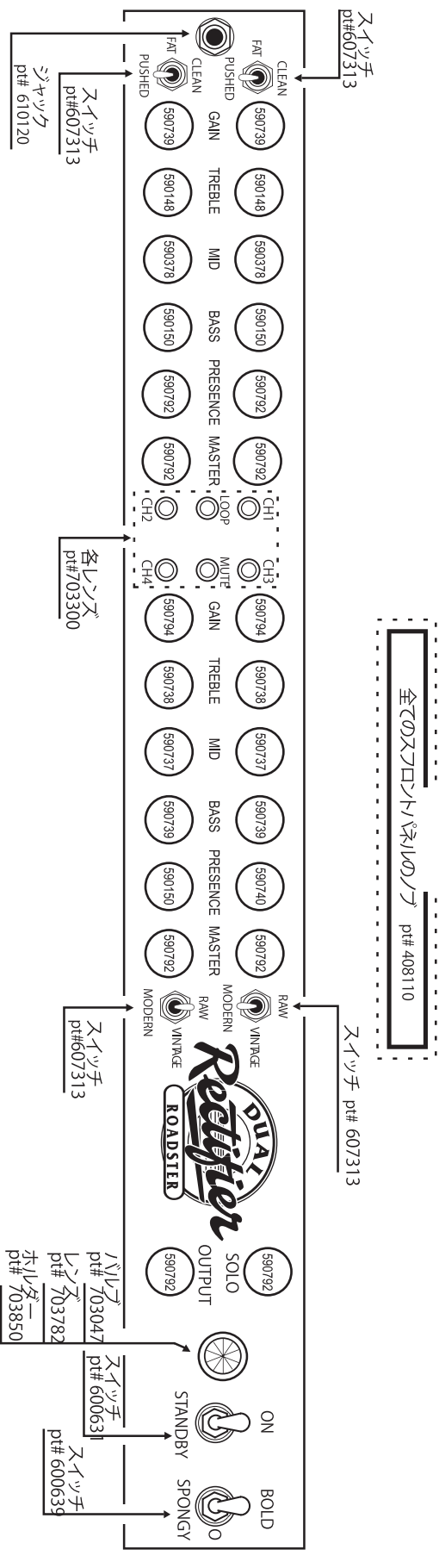
13



14

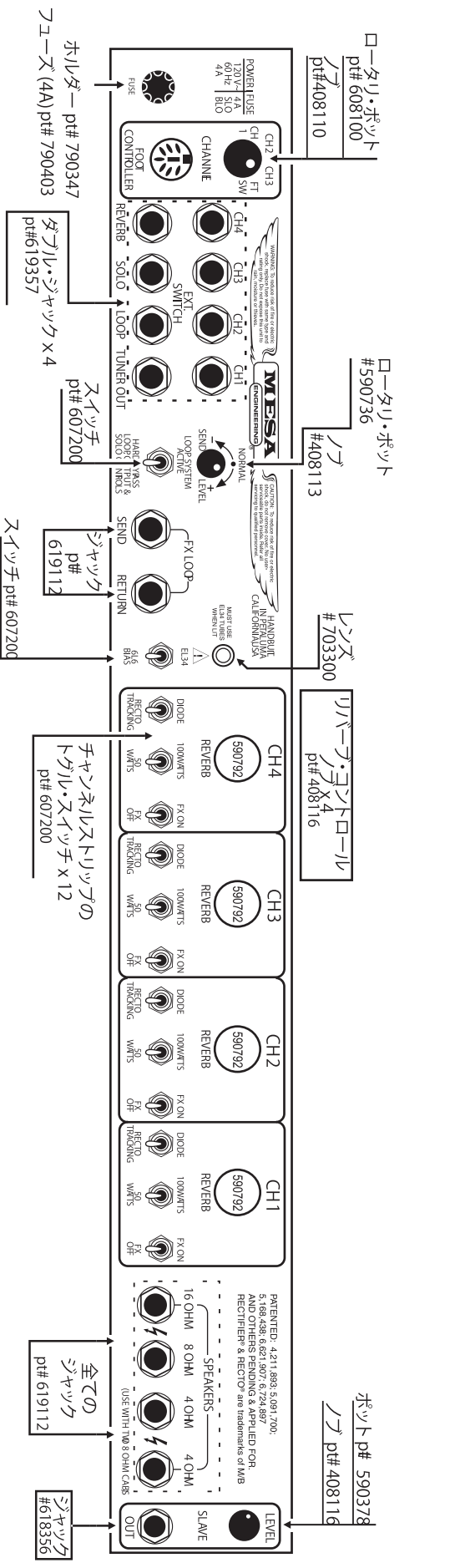


フロントパネル ROADSTER



全てのスクロートパネルのノブ p#408110

バックパネル ROADSTER



The Spirit of Art in Technology



ギブソン・ブランズ・ジャパン株式会社

Email: service.japan@gibson.com

「@gibson.com」からのメールを受信できるよう設定をお願いいたします

お電話でのお問い合わせ窓口：0120-189433（通話料無料）

受付時間 9:30 - 17:00（土、日、祝日、年末年始を除く）